

令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

(2) 教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果

①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進

「全学的な職業教育マネジメント確立のために必要な専門スタッフ育成と情報公開の促進体制の整備」

情報公開および 職業教育マネジメントに関する 調査報告書

目次

1. 概要	1
2. 趣旨・目的	1
3. 情報公開に関するヒアリング調査	1
3-1. 調査方法.....	1
3-2. 調査項目	2
3-3. 調査結果.....	4
3-4. 考察及びまとめ	29
4. 職業教育マネジメントに関するアンケート調査 32	
4-1. 調査方法.....	32
4-2. 調査項目	32
4-3. 調査結果.....	37
4-4. 考察及びまとめ	62

1. 概要

本事業は、専修学校において教育資源を効果・効率的に活用し、その教育成果を適切かつ魅力的に公開していくための各種関連業務を担う専門スタッフ養成プログラムを開発・実施するものである。情報公開により自校の魅力を向上させている事例の調査(情報公開に関するヒアリング調査)と、職業教育マネジメントに関するアンケート調査を実施し、情報を収集する。

2. 趣旨・目的

この調査は、全学的な職業教育マネジメント確立のために必要な専門スタッフ育成プログラム開発に関連する具体的な情報を収集することを目的としている。

情報公開により自校の魅力を向上させている事例についてのヒアリング調査の結果は、学校運営管理責任者向け研修「情報公開を通じた学校の魅力を向上させる経営戦略の検討」にて活用した。また、職業教育マネジメントに関するアンケート調査の結果は、次年度開発する学校運営管理責任者向け研修「職業教育マネジメントの推進」にて活用する。

3. 情報公開に関するヒアリング調査

3-1. 調査方法

(1) 調査手法

本調査では、自校の情報を発信(情報公開)することで、自校の魅力を向上させている事例の調査を行い、学校運営管理者向けの研修プログラムを開発することを目指し、学校運営管理者が自校の魅力向上のために学習し続けるべき知識や技術・スキル、特性などの能力についての情報を収集・整理することを目的としている。

また、併せて、学生個別の成績を分析し、効果を上げていることを公表している例等で成果を上げている学校を調査し、ベストプラクティスを収集し先進的な事例を共有する。

ヒアリング対象:副校長や事務長などの学校運営管理者、及び広報課長など広報関連業務を管理する広報責任者

ヒアリング方法:2～3名の委員にて対象校に訪問し、対面にて実施(予定)
2時間程度のヒアリングを予定。

(2) 調査対象

全専研会員校の中から以下の学校法人より6校程度を対象とする。

- ・学校法人三友学園
- ・学校法人龍馬学園
- ・学校法人穴吹学園
- ・学校法人 YIC 学院
- ・学校法人麻生塾
- ・学校法人 KBC 学園

(3) 調査日程

令和3年10月14日～10月28日

3-2. 調査項目

情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

- ① アドミッションポリシーの説明及び活用
- ② カリキュラムポリシーの説明及び活用
- ③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)
- ④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用
- ⑤ 自己評価報告書の活用
- ⑥ 学校関係者評価報告書の活用
- ⑦ その他

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

- (3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法
- ① 評価対象ターム(PDCAサイクルの確認)
 - ② 効果測定・評価の基準(評価項目)
 - ③ 評価を行うメンバー
 - ④ どのような場合には是正・改善をおこなうのか(見直し方法)
 - ⑤ その他

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①()について
(成功事例が複数ある場合には、以下の質問項目を繰り返す。)

- (1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)
- (2) 完成までのストーリー
 - ① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)
 - ② 活動の展開(体制の構築)
 - ③ 制作物等作成のための情報収集
 - ④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)
 - ⑤ 製作について(外部との連携、外注など)
 - ⑥ その他
- (3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点
- (4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性
- (5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

以上

3-3. 調査結果

6法人での広報活動及び情報公開に関するヒアリング調査結果は、以下の通り。

(1) 学校法人三友学園

対 象 校: 学校法人三友学園 専門学校岡山情報ビジネス学院

日 時: 令和3年10月14日(木) 15:00~17:00

場 所: 岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア6F

調査回答者: 宮岡 良次様(専門学校岡山情報ビジネス学院 理事/事務局長・教務部長)

谷 昌一様(専門学校岡山情報ビジネス学院 事務局 業務課 課長)

調査担当者: 柳田 祐大(実施委員会 委員)

成底 敏(実施委員会 リーダー)

ヒアリングの様子



情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

単に集めるのではなく、たくさんの学校の中で本校を選んで入学してくれた学生が、入学後、さらには卒業後の人生において幸せになってもらうために広報を行う。(ハッピースパイラル) 情報公開については、県に提出するためのものということではなく、日頃の成果をそのまま出すという事を心掛けている。

学生募集の考え方についても、いかに集めるかではなく、来てくれた学生の満足度を上げることが一番大切にしている。

情報公開と広報活動の方向性として、「大げさな表現は使わずに、しっかり取り組んできた実績をありのままに出し、偽らない」という姿勢を徹底しており、そのためにも、教育機関として実績をしっかりと出し続けていく必要があるという考えを教職員と共有している。

① アドミッションポリシーの説明及び活用

特にアドミッションポリシーは入試にかかわる内容なので重要。ミスマッチを防ぎ、退学防

止をするためにもしっかりと伝える。(特にオープンキャンパス)

まずは学科ごとに徹底したものを作る。AO入試は行っておらず、オープンキャンパスでの体験授業を通じて学生の意欲などを観察し、面接を免除するというシステムを採用している。OCの際にAPをしっかりと理解してもらうようにしている。

入学希望者が「今の自分よりも成長できる」と感じられるような設定が望ましい。それぞれ学校に来る目的は違うため、授業だけでなく、イベント等も含め色々なチャンス(成長の機会)がある学校だという事を認知してもらっている。

② カリキュラムポリシーの説明及び活用

人間教育・非認知スキルの育成の重要性、ITスキルとの融合による新たな価値を創造する力の必要性。

知識だけでなく人間性を大事にし、新しい価値とITとの融合を進めている。また、共通プログラム(知識・技術・応用・知恵・創造)を導入していく予定で、卒業がゴールではなく、社会に出てからも活躍できるように育成を行っていく。

他校との差別化をするために全ての学科にITを導入し、各学科とも募集要項・OCで説明している。人間教育・非認知スキルをCPとどう関連付けていくかが今後の課題。

③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)

成績の分析や到達度評価はできていない。

学修成果として卒業生の評価については、キャリアサポートスタッフにより情報収集し教務や後方へのフィードバック。また昨年は企業アンケートを実施。その結果を広報的に展開しつつある。また学生の成長や本校の教育力について、基礎力リサーチの結果を活用し広報物に展開していきたい

教育目標の象徴である「自立」について、「シロクマ先生」のキャラクターにより広報展開。学校で身に付けたものがどう活かせるのかを、エビデンスに基づいて証明していく必要がある。そのために、キャリアサポートが卒業生訪問や企業訪問を行い、過去3年間の状況を大学や他専と比較調査したところ、9割方の企業が当校を評価してくれた。これをエビデンスとしてOCなどで活用している。

各学科の3つのポリシーの確立を行い、次年度に向けて広報物として完成させる。

④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用

ホームページでの掲載。

そもそも高校の先生方が別紙様式4の存在を知らないなので、広報ツールとして使うのは難しい。情報公開すべき内容については全てホームページで公開しているが、特に別紙様式4についてはそのままでは分かりにくいので、退学率などの重要な指標を取り上げて、オープンキャンパス等で開催している保護者説明会などで話をしている。

⑤ 自己評価報告書の活用

ホームページでの掲載

⑥ 学校関係者評価報告書の活用

ホームページでの掲載

⑦ その他

基本データに退学状況一覧を掲載し、オープンキャンパスや保護者相談会で説明。

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

- ① キャリアビジョン
- ② OIC の教育の質保証・向上のための取り組みと情報公開
- ③ 3つのポリシーや情報公開について、「OIC3つのキーワード」にまとめてわかりやすく表現し、パンフレット・ホームページ・オープンキャンパスで展開。

まずはキャリアビジョンを明確にすることで信頼を得ることができる。

広報活動においては、他校が真似できないものを作ることが必要と考え、全ての数値を実数で出すことにした。集めるためだけの広報にならないようにしている。

就職実績についても、「厳しい現実」と「夢を実現できる可能性」の両面についてしっかり伝える。募集が厳しいときもあるが、努力していけば何とかできるという精神で進めている。嘘は言わずに本当のことを言い続けることが大事。そのためには、入口である広報、中身である教務、出口であるキャリアがしっかり連携することが必要。こうした取組の結果、現在は「専門学校に行くなら OIC」という流れが浸透してきた。

(3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法

- ① 評価対象ターム (PDCA サイクルの確認)
- ② 効果測定・評価の基準 (評価項目)
- ③ 評価を行うメンバー
- ④ どのような場合には是正・改善をおこなうのか (見直し方法)
- ⑤ その他

別紙参照

できるだけ早く、細やかに PDCA サイクルを回していく。

素早くこまめに PDCA を回していくのが重要で、毎週土曜日に OC を行った後のアンケート分析を行い、学科ごとの満足度をチェックしている。また、学内のプロジェクト会議では副理事長を中心として、感覚ではなくエビデンスに基づいて検討することを徹底している。

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①(キャリアビジョン)について

(6) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

- ① 正直に、ありのままを
- ② 競合校がまねできない広報を
- ③ 信頼感・ブランディング

(7) 完成までのストーリー

- ① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)
- ② 活動の展開(体制の構築)
- ③ 制作物等作成のための情報収集
- ④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)
- ⑤ 製作について(外部との連携、外注など)
- ⑥ その他

(8) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

業者との関係性・広報スタッフ自身が「想い」を持ち、生み出していくことが大事
 経営方針が教育中心ではない時期があった。「常識が非常識になっている。」と感じ、危機感を強く持った。その時に取り組んだことは、自分達でOKを出してしまうのではなく、外部からしっかり評価してもらうこと。オープンキャンパスについても、「楽しければよい、集めればよい」と学生を集めてしまうと、結果的に苦労するのは現場の教職員である。退学者が多ければ、結局、学校の評判も悪くなり、経営状況は良くならない。
 「希望した職業に就けることができる。」ということがわかれば、将来に対する希望や期待が高まり、学習意欲も増す。入学者数を増やせば良いということではなく、入学した学生の満足度を高めることを最優先とし、結果として入学者が増えるという好循環を目指している。

(9) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

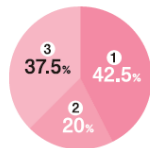
社会的ニーズ・クライアントのニーズ・普遍的な価値・一貫性など
 教育と経営のバランス

(10) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

「学校の教職員は、生徒から見たら全員が教育者」であることを自覚

【参考資料】

職種・業種別内訳	
① ブライダル関係	17名
② ホテル関係	8名
③ その他	15名



ホテル・ブライダル学科(2年課程)

就職決定率

100%

就職決定者 40名
 就職希望者 40名
 卒業者 41名

事業所名	職種	出身校
(株)日本セレモニー	ウェディングプランナー	岡山南
(株)日本セレモニー	ウェディングプランナー	岡山南
(株)日本セレモニー	ウェディングプランナー	神辺旭[広島]
エスタシオン・デ・神戸(株)平安	ウェディングプランナー	福山明王台[広島]
CELESTE 倉敷セレスト教会クォーレ	ウェディングプランナー	岡山東商業
CELESTE 倉敷セレスト教会クォーレ	ウェディングプランナー	倉敷中央
SARA 津山玉姫殿(株)バンデヴィスタ	ウェディングプランナー	明誠学院
グラン・アキール(有)フロレス	ウェディングプランナー	松江東[島根]
森の邸宅 彩音(株)インテ	ドレスコーディネーター	高梁城南
銀座ダイヤモンドライン(株)ニューアート・シーマ	ジュエリーアドバイザー	総社
ジュエリーKANDA 菅田(株)	ジュエリーアドバイザー	岡山東商業
ジュエリーKANDA 菅田(株)	ジュエリーアドバイザー	瀬戸南
As-meエステール(株)	ジュエリーアドバイザー	総社
(株)サダメツ	ジュエリーアドバイザー	尽誠学園[香川]
(株)カジタ	ジュエリーアドバイザー	神辺[広島]
グランドプリンスホテル広島(株)プリンスホテル	ホテルスタッフ	総社
(株)ホテルニューアワジ	ホテルスタッフ	山陽女子
ANAクラウンプラザホテル岡山(株)レイ	ホテルスタッフ	岡山東商業

事業所名	職種	出身校
安芸グランドホテル(株)鈴木商会	ホテルスタッフ	山陽女子
玉造温泉ホテル佳翠苑皆美(有)玉造皆美	旅館スタッフ	香川県藤井[香川]
(株)銀波荘	旅館スタッフ	備前緑陽
湯郷温泉 花の宿 にしき園(有)にしき園	旅館スタッフ	岡山南
湯めぐりの宿 松の家 花泉(有)松乃家	旅館スタッフ	東京フールド日本語学校
(株)ガラシャ	エステティシャン	倉敷中央
SPA JEWEL(株)遊食房屋SPAジュエル	エステティシャン	尽誠学園[香川]
(株)メディアビューティー	エステティシャン	玉島商業
(株)さくら祭典	フューネラルスタッフ	瀬戸
(有)アーバンホール	フューネラルスタッフ	関西
京呉屋好一(株)	着物アドバイザー	和気開谷
(株)さが美グループホールディングス	着物アドバイザー	瀬戸南
白山陶器(株)	販売職	瀬戸
(有)中屋本舗	販売職	因島[広島]
インポートショップトレンド 東中国イシコ建機(株)	販売職	岡山一宮
衣装レンタル&スタジオピカソ(株)きもの工芸西陣	総合職	神辺旭[広島]
板野機工(株)	一般事務	岡山東商業
(有)萩原総業	受付事務	高松南[香川]

(「キャリアビジョン2021」より)

エビデンス OICだからこそ出せるEVIDENCE。 就職実績のすべてを公開します。

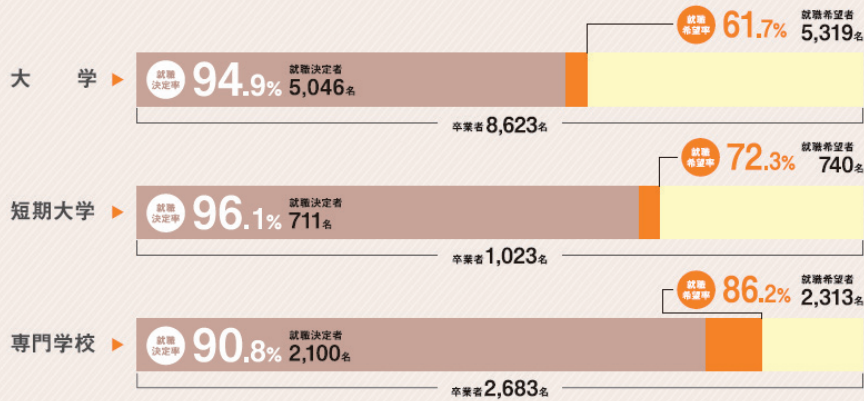
2021年3月
卒業生
就職実績

就職実績は学生一人ひとりが自分の将来としっかり向き合い、教師やキャリアサポートスタッフとともに真剣に就職活動に取り組んだ結果です。OICでは就職決定率(%)だけでなく、学科ごとの卒業生数や全員の就職先に至るまで、すべての情報を公開。より“質”の高い就職を実現しています。

数字の見方 ●就職決定率=就職決定者数÷就職希望者数(就職希望者に対する、就職決定者の割合)
●就職希望率=就職希望者数÷卒業生数(卒業生に対する、就職希望者の割合)



岡山県内の大学・短期大学・専門学校全体の数値と比較してみよう



岡山労働局統計資料 令和3年3月新卒学校卒業生の就職決定状況(令和3年3月末現在)
※就職希望者・就職決定者・未決定者のうち、教員・公務員・自営業への就職は含まない。

(「キャリアビジョン2021」より)

5. 令和2年度退学者等数及び中途退学率(令和2年4月1日～令和3年3月31日期间)

課程名	学科名	学生数	退学者等数	中途退学率
商業実務 専門課程	医療福祉事務学科	145	3	2.1%
	診療情報管理士学科	61	1	1.6%
	ホテル・ブライダル学科	89	4	4.5%
	経営アシスト学科	91	3	3.3%
	公務員学科	57	2	3.5%
	公務員速修学科	27	3	11.1%
	商業実務専門課程 計	470	16	3.4%
教育・社会福祉 専門課程	保育学科(3年制コース)	50	3	6.0%
	保育学科(2年制コース)	13	0	0.0%
	教育・社会福祉専門課程 計	63	3	4.8%
工業専門課程	情報スペシャリスト学科	119	3	2.5%
	情報システム学科	124	4	3.2%
	ゲームクリエイター学科	157	9	5.7%
	ゲームプログラマー学科	35	0	0.0%
	データマーケター学科	59	3	5.1%
	ネット・動画クリエイター学科	40	1	2.5%
	CGデザイン学科	58	2	3.4%
	国際ITシステム学科	33	1	3.0%
	工業専門課程 計	625	23	3.7%
合計	1,158	42	3.6%	

(「学校基本データ」より)

(2) 学校法人龍馬学園

対 象 校: 学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ

日 時: 令和3年10月15日(金)9:30~11:30

場 所: 高知市北本町1-12-6

調査回答者: 大久保光洋様(学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ 副校長)

松村 和美様(学校法人龍馬学園 学園本部 業務部 課長)

調査担当者: 柳田 祐大(実施委員会 委員)

成底 敏(実施委員会 リーダー)

ヒアリングの様子



情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

① アドミッションポリシーの説明及び活用

募集要項に掲載はしているが、活用としては不十分。

AO入試導入に伴い、河原学園さんを参考に作成した経緯有り。

AO面談時に、アドミッションポリシーを確認している。

② カリキュラムポリシーの説明及び活用

③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)

②③については策定していない。(明文化できていない。)

しかし3つのポリシーは学校に対する信頼を勝ち取り、広報活動における重要な財産となるものと位置付け、穴吹学園さんのカリキュラムブックを参考に次年度より制作すべく着手済。

④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用

龍馬学園3校 17 学科が認定を受け、パンフレット及び HP 等で紹介している。

内容については、学科長が作成し、部長が取りまとめ、副校長が確認している。

⑤ 自己評価報告書の活用

⑥ 学校関係者評価報告書の活用

⑤⑥ともにHPで公表している。

年1回(8月～10月)前年度の自己評価をベースに学校関係者評価を実施。

⑦ その他

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

学校訪問がメインの募集広報手段であり、手作りの資料等が中心(各高校のカルテを作成しており、3年生の担任教員と進路指導教員をリスト化している)。

高知県内が主要(9割超)マーケットであり、学園報「Ryomajin」(年3回)や各校の「HOT NEWS」は一定の効果が認められる。

2002年5月に創刊した学園報「Ryomajin」では卒業生の活躍を掲載し、様々な仕事を紹介している。(在校生やOC参加者、各高校や就職先企業などに配布。同窓会である「校友会」では年1回3部まとめて郵送。)

「HOT NEWS」は、作成から印刷まで校内で手がける簡易なもので、速報性があり、ニュースやイベントがあった時に不定期で発行している。

(3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法

① 評価対象ターム(PDCAサイクルの確認)

大きな流れは、年間スケジュールを作成し、制作・活動をしているが、状況に応じて現場レベル(業務部)で臨機応変に対応している。
月1回の募集会議にて振り返りを実施し、その後の活動を見直し。

② 効果測定・評価の基準(評価項目)

主に成果をもとに評価しており、高校教諭・保護者・生徒の反応を材料としている。(OCの参加状況、出願状況など。)

③ 評価を行うメンバー

評価メンバーは募集広報班と学園幹部

④ どのような場合に是正・改善をおこなうのか(見直し方法)

現行の対応に問題等が認められる場合に、可能な限りタイムリーに対応するよう心掛けている。

⑤ その他

高校の先生から質問や調べ物の依頼を受けると、各校担当者とも情報を共有・確認した上でそれに対応し、得られた情報については業務課が中心となって他の高校にも共有している。

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①(学園報 Ryomajin)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

年間3回(春夏秋)のペースで卒業生・学校行事等の情報をA4カラー8頁にまとめ、在学生や保護者ならびに卒業生や高校等に配付しており、学園アピール効果が大きいツール。

(2) 完成までのストーリー

① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)

現場中心のボトムアップで企画・立案。

原稿ができあがったところで経営層に承認をとり、発行。

② 活動の展開(体制の構築)

リベラルな風土。各教職員が自発的・積極的に動けるようになっている。

コミュニケーションの良さに繋がっている。

③ 制作物等作成のための情報収集

広報担当と各校1名のRyomajin担当教員が中心となり、原稿を作成。

④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)

⑤ 製作について(外部との連携、外注など)

制作にかかる情報収集等は募集広報班を中心に行い、

指定業者と連携して完成させている。(HPやパンフと同じ業者に外注。)

⑥ その他

在校生やOC参加者には直接配布。高校には持参または郵送している。

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

特になし

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

コミュニケーション能力(業務部との連携体制の構築、学科ごとの情報を吸い上げること)

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

自分の業務だけでなく、相手の業務・役割にしっかり目を向ける。

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例②(各校HOT NEWS)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

検定合格やコンテスト入賞、企業との連携授業などがあった場合に、

不定期で「HOT NEWS」を制作(内製)

募集担当は、担当高校の学生がHOTNEWSに掲載されたら、当該高校に持参、配付・掲示してもらい学科・学校のアピール。最新情報を提供することが可能。

(2) 完成までのストーリー

- ① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)
- ② 活動の展開(体制の構築)
- ③ 制作物等作成のための情報収集
- ④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)
- ⑤ 製作について(外部との連携、外注など)
- ⑥ その他

HOTNEWS に値する出来事があれば、各校が制作。

募集広報部門には完成データが届き、希望サイズで印刷、ラミネート等を行う。

HOTNEWS は各校教員が制作しているため、

多忙な時期は完成が遅くなる場合もある

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

(3) 学校法人穴吹学園

対 象 校: 学校法人穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ／穴吹ビジネスカレッジ

日 時: 令和3年10月15日(金) 15:00～17:00

場 所: 高松市錦町1-22-23

調査回答者: 森川 和哉様(学校法人穴吹学園 広報・事業企画部 部長)

戸倉 潤也様(学校法人穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ／専門
学校穴吹ビジネスカレッジ 副校長)

調査担当者: 柳田 祐大(実施委員会 委員)

成底 敏(実施委員会 リーダー)

ヒアリングの様子



情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

① アドミッションポリシーの説明及び活用

メインパンフ、カリキュラムブック、HP に掲載、OC 等で説明

カリキュラムブックは、就職先企業からの評価が予想以上に高かった。

高校の先生や保護者には、教育内容をしっかり伝えられていると感じている。

資料請求者への配布や、高校での説明会にて配布しているが、高校生からは文字が多いと言われており、改善の余地があると感じている。

カリキュラムブックは毎年見直しており、3 月末までに作成している。表現については、各学科にて管理者が入って検討し、教育総研にてチェックしている。

② カリキュラムポリシーの説明及び活用

メインパンフ、カリキュラムブック、HP に掲載、OC 等で説明

③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)

メインパンフ、カリキュラムブック、HP に掲載、OC 等で説明

学習評価ではないが就職実績としてカリキュラムブックに学科別実績を記載

④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用

高校教師対象説明会、入試説明会で一部活用(教育課程編成委員(外部)からの意見を積極的に取り入れていることを伝えている。)

別紙様式 4 については、「他の学校との比較」に使えることを伝え、他校との比較を促している。

⑤ 自己評価報告書の活用

HP に掲載

⑥ 学校関係者評価報告書の活用

HP に掲載

各校とも、評価委員に高等学校の校長を加えた。

⑦ その他

まだ出来ていない部分もありますが、教育情報の公開は必須だと思います。

さらに、情報公開に向けてすすめていきたい(内部調整も必要)。

学園全体として、入学前教育への取組を進めている。早期入学決定者に対するケア(モチベーションの維持)は、高校の先生方からも好評である。取組課題として、業界研究レポートを課している学科もある。

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

カリキュラムブック

(3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法

「目標とする人材像」に到達させることができたのか?という観点で評価。

評価軸、評価手法は学科ごとに異なる。

① 評価対象ターム(PDCAサイクルの確認)

② 効果測定・評価の基準(評価項目)

③ 評価を行うメンバー

④ どのような場合に是正・改善をおこなうのか(見直し方法)

⑤ その他

- ・ Web 関連は外部業者による効果測定、分析、広報サポートを実施。
- ・ その他の広報物の効果測定・評価は実施出来ていないが、OC アンケートの一部を(Google フォームに)変更し評価や改善を予定。
- ・ B ダッシュ(マーケティング・オートメーションツール)を活用。
- ・ 「YouTube に出ていた〇〇先生の授業を見て、この学校に入りたくなった。」など、学生の入学動機や行動が変わってきている。
- ・ オンライン(配信)セミナーについては、コロナ前から実施していた。メリットとしては、3 地区(高松、徳島、中国地方)で同時に受講することが可能となること。
- ・ 学園内にて、階層別に管理職研修を実施している。
- ・ 今後は SDGs を前面に出し、社会貢献・地域貢献への取組を進めていきたい。

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①(カリキュラムブック)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

高大接続改革対策として3Pの策定・公表を実施
並行してCPの具体的内容を広報するツールを作成

(2) 完成までのストーリー

① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)

ボトムアップ

② 活動の展開(体制の構築)

本部広報・事業企画部主導で活動(1名)
広報・事業企画部長から、副校長を通じて各学科(30学科)に作成を依頼。

③ 制作物等作成のための情報収集

「高大接続」について情報収集

④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)

特になし(副校長が主導し、各学科の情報をとりまとめ、教育総研にて情報を整理)

⑤ 製作について(外部との連携、外注など)

内部及びグループ関連会社で制作

⑥ その他

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

組織人員減による広報経験者・制作経験者の不足

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

- ・ 「腐らずに、前向きに」高校生の前で、キラキラしてほしい。
- ・ 明るく活気のある教室の雰囲気など、学校の雰囲気づくり。
- ・ 新しい技術を学び、それを伝えていくという部分では熱心な教員が多い。しかし、高大接続など、制度や仕組みの変化、教育の深化について、視野を広く持てる教員は少ない。

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

(4) 学校法人 YIC 学院

対 象 校:学校法人 YIC 学院 YIC 情報ビジネス専門学校

日 時:令和3年10月21日(木)9:30~11:30

場 所:山口市小郡黄金町2-24(YIC Studio)

調査回答者:河津 道正様(学校法人 YIC 学院 YIC 情報ビジネス専門学校 副校長)

現海 香里様(学校法人 YIC 学院 広報戦略室 マーケティング広報コントロール
センター 室長補佐)

調査担当者:泉田 優(実施委員会 委員)

松田 義弘(運営委員会 委員)

山根 大助(運営委員会 委員)

ヒアリングの様子



情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

- ① アドミッションポリシーの説明及び活用
- ② カリキュラムポリシーの説明及び活用
- ③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)
①~③については、学科ごとに策定し、ガイドブック(学校案内パンフレット)に掲載している。
- ④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用
5月に行われる高校教員への説明会の際、別紙様式4からポイントを絞って情報を抜き出して説明に使用している。
別紙様式4を作成する過程で、各学科の責任者・担当者が他の学科の動きを把握することができた。

各学科の教員が関わって作成することを通じて、何が重視されているのかを意識できるようにしている。

⑤ 自己評価報告書の活用

企業や高校の先生方に伝えている。

評価結果から、エビデンスや関連ページにリンクを張れるようにしていきたい。

⑥ 学校関係者評価報告書の活用

⑦ その他

企業や高校の先生方に伝えている。

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

学科説明ハンドアウト(持ち帰り資料)

インタビュー動画

(3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法

① 評価対象ターム(PDCAサイクルの確認)

毎週月曜日に、募集状況の数値を確認。⇒火曜日に全校の数値を集計。

OCの都度、参加状況、第一志望の数などを確認。

毎月行われる経営会議にて報告。

② 効果測定・評価の基準(評価項目)

申込み数、アクセス数、登録数など、学生募集に関する数値。

③ 評価を行うメンバー

広報戦略室のメンバー＋各校の運営責任者

④ どのような場合には是正・改善をおこなうのか(見直し方法)

毎月行われる経営会議での報告後の指示のほか、

各部署・各階層で細かくPDCAが回され、それぞれの段階で是正・改善が行われる。

⑤ その他

これまでは、「OCは楽しければ良い」と考えていた。

その結果、OC参加者は、帰宅して保護者からどうだったかと尋ねられても「楽しかった」としか答えられず、進学に対する保護者からの支持を得られなかった。

入学決定へと繋げるためには、相手(学生・保護者)が何を求めているかを的確につかみ、それに応えていかなければならない。3ポリシーをしっかりと伝えていくこともその一つになる。

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①(学科説明ハンドアウト)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

・来校から出願への歩留まり率向上のため

・従来はパワーポイントの投影や口頭でのみ学科説明を行っていた

- ・高校生のみで参加した際に、自宅に帰ってから保護者(進学に際し最終的な決定権を持つ)に見せて説明・説得することができずに他校へ流れていた
 - ・他校との差別化するために、ページ数の限られたパンフレットだけでは載せきれない学科の魅力の説明する資料が必要だった
 - ・常に新しい情報を追加・編集するために随時更新していきたい(資格取得・就職状況など)
- 昨年度、校名変更及び学科リニューアルを実施。
当初、募集に苦戦したが、ハンドアウトを作成後、好転。その結果、定員20名の3年制学科の募集状況が昨年度27名、今年度も既に29名となっている。
平成2年の開学以来、これまで3年制の学科を繰り返し設置／廃止しているが、入学者が2桁となったことがなかった。今回、成果を上げている

(2) 完成までのストーリー

- ① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ) トップダウン
- ② 活動の展開(体制の構築) 副校長→各学科
- ③ 制作物等作成のための情報収集
各学科
Googleドライブを活用した情報共有。
情報工学科(3年課程)と情報システム科(2年課程)は専任教員4名全員が兼務。
- ④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)
外部との連携はなし(自前で制作)
- ⑤ 製作について(外部との連携、外注など)
外部との連携はなし(自前で制作)
- ⑥ その他 なし
非常勤講師を含め教職員一丸となって教育の質向上に努め、「全講師が情報処理技術者試験に合格済みの高度な専門知識を有するスペシャリスト集団」であることを22種類もの情報系の国家試験とそれぞれに合格している講師数(のべ人数)を掲載してアピールしている。同地域の国立大学や理系私立大学を競合と捉え、国家試験への合格率や就職実績などを公表している。

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

- ・他校との差別化(説得材料として有効か)
- ・数値を示し説得力を持たせる
- ・イメージしやすいように、文字だけでなく写真を多用する
- ・随時更新していき、最新の情報を発信する

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

- ・客観的に見る
- ・SNS の活用

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

月1回行われる副校長会議によって、SNS の活用法なども含め、副校長にとって必要な知識・技術を共有し、お互いに高め合っている。(マネジメント力の向上)

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例②

(専門学校 YIC リハビリテーション大学校 インタビュー動画)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

紙からの脱却。(高校生は紙媒体の資料をあまり見ない。)

SNS、動画による広報を、より積極的に進めて行く。

・分野をめざしたきっかけや学校の魅力、高校生へのメッセージなど

→ オープンキャンパスなどで使用(将来像を描きやすいと本人だけでなく保護者からも好評)

・在校生や卒業生からの言葉で学校の魅力を伝えたい

入学後の様子を紹介することで、自分がどうなれるのかがわかる。

・将来像を描きやすい(キャンパスライフのイメージ)動画を作りたい

実践的な教員の活躍を紹介。(例えば、オリンピック・パラリンピックで選手のケアをしていた作業療法士など。)

(2) 完成までのストーリー

① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)

トップダウン・ボトムアップ両方

② 活動の展開(体制の構築)

本部広報→学校

③ 制作物等作成のための情報収集

学生の選定(学校)、事前アンケート送付

④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)

本部広報

⑤ 製作について(外部との連携、外注など)

取材・撮影(本部広報)・動画編集は外部

⑥ その他

インスタグラムを積極的に活用。

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

●工夫した点

・インタビューを複数で行い、同じ設問を違った切り口で聞くことで、内容を深めていく
(特に在校生は同じ内容を口にしやすいため)

・授業の様子なども撮影し、動画に取り入れていくことで、学校生活のイメージが湧きやすいようにする

● 苦勞した点

- ・人選(教員の推薦と動画として見せることに適した人材かが違うことがある)
- ・外注費用の工面

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

- ・ヒアリングスキル
- ・撮影(動画)

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

(5) 学校法人麻生塾

対 象 校: 学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ

日 時: 令和3年10月21日(木) 15:00~17:00

場 所: 福岡市博多区博多駅南2-12-24

調査回答者: 林 宏治様(学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 理事/統轄本部長)

小山田 幸治様(学校法人麻生塾 法人本部 広報部 グループ長)

倉吉由紀子様(学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ グループ長)

調査担当者: 泉田 優(実施委員会 委員)

成底 敏(実施委員会 リーダー)

山根 大助(運営委員会 委員)

ヒアリングの様子



情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

① アドミッションポリシーの説明及び活用

教育理念やミッション、ビジョン、目指す人材像からなる「麻生塾の経営方針」に基づき、学校ごとに、教育理念を頂点に掲げ、教育目的と育成人材像を提示し、3つのポリシーを展開するピラミッドを描いている。

アドミッションポリシーについては、学科の教育理念、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学修成果を示すもの(入学者に求める学力の明確化)として提示している。

② カリキュラムポリシーの説明及び活用

カリキュラムポリシーについては、ディプロマポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針として提示している。

③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)

ディプロマポリシーについては、学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、専門士の称号を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるもの(学生が身につけるべき資質・能力の明確化)として提示している。

④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用

「退学率」などが公開されるので、競合校との比較を行う際に活用している。

⑤ 自己評価報告書の活用

学内におけるPDCAサイクルに活用している。

「3ポリシーを用いた内部質保証のためのPDCAサイクル」を2018年に策定し、2019年から運用している。

⑥ 学校関係者評価報告書の活用

⑦ その他

学生募集については、12校68学科合同で行っている。

以前は学校別で取り組んでおり、募集要項も別々に作成していたが、複数校で共用するようになり、現在のような形(合同の募集要項)となった。

教務関連の情報公開として、シラバスを公開。「シラバス作成マニュアル」を活用し、適切なシラバスとなっているかを学科の主任がチェックしている。

「教育推進グループ」を設置し、シラバス作成の支援や学則変更(学事課との窓口)、オンライン授業の支援、教職員研修などを担当している。

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

オンラインコンテンツ、Zoom を使った OC (県外からの入学生が少ないため)。
現地スタッフを九州 7 県及び山口県に配置(専任ではなくパート等)し、各地域で行われている説明会にも対応(コロナ禍で、県境を越えての移動が制限されていた中での対応)。
RISE(学生の委員会活動により、学生主体で作られている情報誌。デザイン系の学校の学生が中心となって企画・運営。)

(3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法

① 評価対象ターム(PDCAサイクルの確認)

広報活動・広報制作物に関する効果測定というよりも、教育活動全体を通じての PDCA サイクルの確認として評価を行っている。
広報活動についての評価としては、OC を実施する度に、振り返りを実施している。

② 効果測定・評価の基準(評価項目)

資料請求者数、OC への動員数など(歩留まり)

③ 評価を行うメンバー

学校単位での評価と、エリアごとという評価軸の双方から見ている。

④ どのような場合に是正・改善をおこなうのか(見直し方法)

8 月末の状況、10 月末の出願数で状況を把握し、手を打っている。

⑤ その他

OC は月 2 回くらい(年間 24 回ほど)

コロナ禍で、従来型とは違う個別対応型の OC での動員が増えてきた。

医療福祉系では、通信課程があり、以前から社会人向けに YouTube による広報活動を行っていた。現在はこれを横展開し、各校とも、来校型、Zoom によるオンライン型、YouTube による視聴型という 3 通りの OC を展開している。

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①(フィールドワーク(高校訪問))について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

昭和 61 年に専門学校を開校。開校当初から高校への直接営業を重視している。

(2) 完成までのストーリー

① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)

② 活動の展開(体制の構築)

広報担当 40 名のうち、16 名がフィールドワークに力を入れている。

③ 制作物等作成のための情報収集

高校へのフィールドワークをしている部隊から、高校のニーズを吸い上げている。

④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)

麻生グループの中に広報・デザインの企業があり、そちらと連携。

⑤ 製作について(外部との連携、外注など)

麻生グループの中に広報・デザインの企業があり、そちらに発注。
オンラインコンテンツ作成など、具体的な手法・取組については、ボトムアップで行っている。

⑥ その他

既卒者対応として、社会人を募集する場合には電話営業を実施(高校生向けではやらない取組)。

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

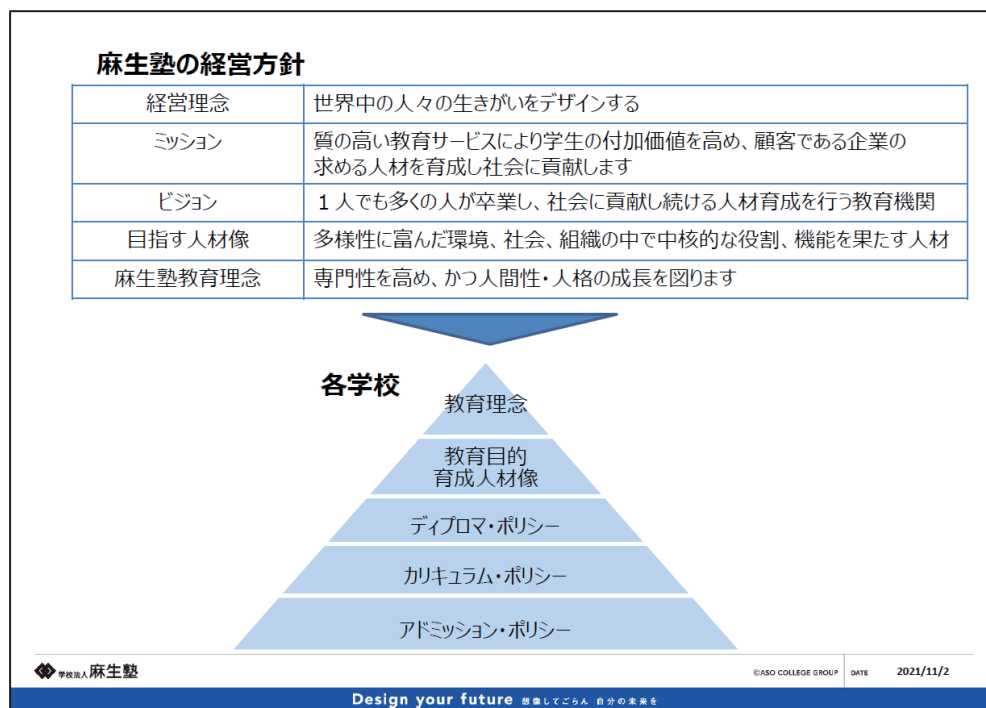
コロナ禍での広報活動の制限(高校訪問、ガイダンスなどができなくなったこと)。
オンライン OC を含め、3通りのアプローチを設けたので、OC 参加への予約をどのように管理するかが課題。

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

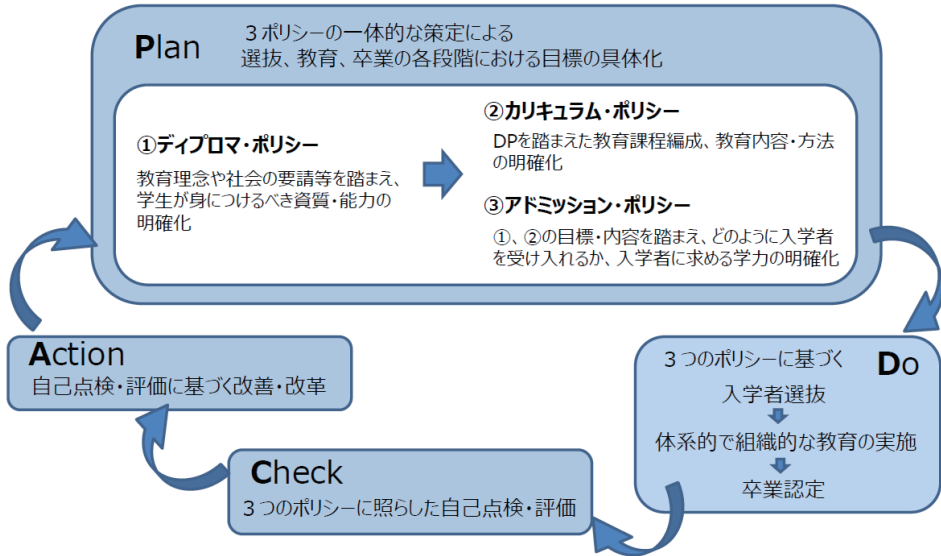
SNS の利用など、高校生の行動特性を考慮したイベントなどの実施(インスタライブ)。

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

【参考資料】



3ポリシーを用いた内部質保証のためのPDCAサイクル



公表物

	AP	CP	DP
情報公開	ホームページ 募集要項	情報公開 ホームページ カリキュラム	情報公開 ホームページ 就職率
広報活動	学校説明会 / OC 学生便覧	シラバス 関連資料 コマシラバス 学生行動基準	S企業就職 卒業基準
入学試験	願 書 理由シート望志理由	教育	就職率目標
情意面	入学試験(面接) 入学試験(特待B)	情意面 GCB I II III教育	S企業就職目標
学力面	入学試験(特待A) 入学試験(特待C) 資格	学力面 専門科目 ミニテスト 定期試験	内定取消目標
	↓ 個別状況の確認	その他 検定目標 進級基準	内定辞退目標
その他	入学前 基礎学カリサーチ ASOドリル	出席率目標 退学率目標 授業アンケート 担任アンケート クラス・担任表彰制度	卒業時アンケート(对学生) 卒業生アンケート(対企業)

(6) 学校法人 KBC 学園

対 象 校: 学校法人 KBC 学園 エルケア医療保育専門学校

日 時: 令和3年10月28日(木) 9:30~11:30

場 所: 那覇市旭町114-5

調査回答者: 山越 優毅様(学校法人 KBC 学園 教務部 部長)

永村 勇樹様(学校法人 KBC 学園 事務局長)

調査担当者: 泉田 優(実施委員会 委員)

柳田 祐大(実施委員会 委員)

ヒアリングの様子



情報公開と広報活動・広報制作物の関連性についての考え方

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性をどのように考えているか

- ① アドミッションポリシーの説明及び活用
- ② カリキュラムポリシーの説明及び活用
- ③ ディプロマポリシーの説明及び活用(学生個別の成績の分析、学習目標への到達度評価など、学習成果の評価と結びつけられているか)
 - ・平成28年から3つのポリシーを学科ごとに作成し、情報公開についてはHP上にテキストで行い、改定も毎年実施している。今年の10月よりOCや入学前オリエンテーションにて説明していく予定であり、目的は入学後のミスマッチを減らすことである。
 - ・制作物として「カリキュラムマップ」を作成することで、AP・CP・DPの流れが分かるようにしている。作成の初期段階では内部から否定的な考えもあったが、完成後はその資格、その科目がなぜそのタイミングで必要なのかを一目瞭然にすることができた。製作するにあたってのモデルは、成底先生が観光系の管理職時代に色々な学校のデータを参考に作成し、担任によってはクラスに掲示して活用している。
 - ・イベントを運営する学生実行委員から「クレド」についての興味、関心が寄せられたことから2008年に「学生クレド」を作成した。その当時作成したメンバーの名前が現在も入っている。KBC学園の学生とはこうあるべきというベースであり、既存の各学科について3Pの元となっている。毎朝HRで唱和も行っている。
 - ・APを明確にしたことによる成功事例として、たとえば登録販売者の育成については、ス

スタート時に医療系学科で活用していたが、病院で事務を目指す学生とドラッグストアで販売をしたい学生は目標や考え方も違うため運営に苦戦した。そういった経験からAPを入学時に明示し理解させることで、入学後のミスマッチを防ぐことに繋がった。

・DPと成績評価については、本来であればDPを達成できたかどうかで成績評価をするべきだが、実際にはそこまで出来ていない。今後はPDCAの「C」が課題である。

④ 別紙様式4(職業実践専門課程)の活用

現在はホームページ上で公開しているが、事務的に行っているのみである。

⑤ 自己評価報告書の活用

⑥ 学校関係者評価報告書の活用

⑦ その他

(2) 効果を上げている手法・広報制作物

LINE登録チラシについては、昨年よりOC参加者は基本的にLINE登録→申込→参加→アンケート(Foams)→クーポン配信を行っている。現在OCの申込はLINE登録をしないと出来ないためほぼ全員登録している。

それまで年度単位で募集活動を行っていたが、10月頃から1・2年生向けにシフトチェンジしている。その際もLINE登録は効果的だが、課題として登録名が本名でないケースがあるため、高校名、名前、学年を返信してくれた場合のみクーポンを付与している。

クーポンの内容は、登録時のインセンティブとして、「マチカフェ」のコーヒーか、アイスの「ピノ」が選べ、その後OCに参加すると「ハーゲンダッツ」か「からあげくん」のデジタルクーポンがもらえる。これにより入学対象者と直接つながり、情報のやり取りが出来るため、OC時の名簿作成といった広報担当者の負担も軽減された。商品をもらった後にブロックする数も一定数いるが、そこは特に気にしない。2020年11月頃から本格始動し、校内ガイダンスにおいても活用が出来る。送りたい相手にピンポイントで情報提供ができるため、出願済みの学生に対しても連絡がしやすく、入学が確定した生徒に課題等を出すことも可能となっている。

(3) 広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法

① 評価対象ターム(PDCAサイクルの確認)

毎月一覧表を作成し実施している。

② 効果測定・評価の基準(評価項目)

登録数

③ 評価を行うメンバー

副校長、事務局長、教務部長が行っている。

④ どのような場合に是正・改善をおこなうのか(見直し方法)

クーポンの内容は時期に応じた商品等に改善している。LINEで高校生とつながっているため、実際に欲しいものを聞くことができる。クーポンはローソンから月単位でまとめて購入している。

⑤ その他

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例①(クレドカード)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

学校数の増加により職員数も増えたことによる教育指導体制の低下や、非効率化を防ぐために、「経営理念」や「教育理念」・「育成する人材像」を全職員への浸透を図ることを目的にプロジェクトを指導した。メンバーは理事長をはじめ、参与、経営企画室長、各校選抜者などが参加し、約1年間の検討期間を費やした。(2004年ごろ)。

(2) 完成までのストーリー

① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)

プロジェクトメンバーが経営層(学園長・参与)へ聞き取りを行い、早朝の時間などに集まり制作を進め、2004年にスタートし2005年に発行している。「自利利他」は学園長の座右の銘であり、職員にこういう風に行動して欲しいというのがもととなっている。

② 活動の展開(体制の構築)

職員は各部署の朝礼にて唱和し、自分の体験を交えて毎朝コメントを発表している。

③ 制作物等作成のための情報収集

参考にしたのは「リッツカールトンホテル」である。このカードに則った行動が出来るようにしておくことで、無駄な確認等を省き、接客のクオリティが維持できるといった考えを、学園でも取り入れている。

④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)

100%内部で制作している。

⑤ 製作について(外部との連携、外注など)

麻生グループの中に広報・デザインの企業があり、そちらに発注。
オンラインコンテンツ作成など、具体的な手法・取組については、ボトムアップで行っている。

⑥ その他

- ・学園のクレドカードを参考に那覇市でもクレドカードを作成し活用していると聞いている。
- ・2008年に学生より「学生クレド」作成の提案があり、学生実行委員にて作成した。毎朝HRにて唱和・コメントが行われている。

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

- ・壁に掲示ではなく、モバイルで活用できる形にした。
- ・毎年の新任教員研修にて副校長が2時間のクレド講座を実施している。

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

・常に経営トップに“伺い”を立てるのではなく、職員個々がクレドに基づき判断し行動することにより、各種決裁や承認が迅速に行われている。それにより職員及び学生の“真面目”な風土が作られている。

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか
習慣化すること

※「効果的な広報活動・広報制作物」成功事例②(KBC 学園の誓い)について

(1) それら「効果的な広報活動・広報制作物」実施の経緯(起源、課題、問題意識など)

・教育理念(人間性育成)についてのツール不足から科目開発を検討した。2年間のプロジェクトとして、2010年「就職術」→2015年「MyLife」→内容の再検討→2016年「KBC STANDARD」→2017年「志学 I II」→現在に至る。

(2) 完成までのストーリー

① 計画・立案(トップダウン or ボトムアップ)

プロジェクトベースで行った。高度な技能、技術については地域でナンバーワンかナンバーワンの実績があったが、人間性を育成する部分についてのエビデンスとして「志学」という科目を作った。製作については現在山越先生がリーダーを務めている。

② 活動の展開(体制の構築)

「志学」については I と II があり全学科が必修となっている。原則担任が進めるが、経験の浅い教員については管理職が担当していて、OC 等でも活用している。時間的には 2 年間で 30 コマ程度割いている。現学園長から卒業までに「志学」は習得して欲しいとの指示があった。テキスト開発等については副校長を中心とした有志のメンバーで進めた。

③ 制作物等作成のための情報収集

吉田松陰の「志」やマズローの「欲求 5 段階説」なども参考にしている。

④ 情報の分析・検討(外部との連携、外注など)

就職先企業からは単独で求人を出してくれるところが増えた。また、保護者の声も毎年聞いており、学生達の変化を近くで見ている方々からヒアリングを行っている。これにより「志学」の効果測定をしている。高校生に対しても OC で伝えており、保護者に対しては好評である。出張授業でも「感謝」や「チャレンジ精神」に絞って講義している。

⑤ 製作について(外部との連携、外注など)

プロジェクトベースで行っている。

⑥ その他

企業や高校へプログラムを提供しているが、今後は特に企業への取り組みを広げたい。

(3) 広報活動・広報制作物の製作に関して、工夫した点・苦労した点

冊子「KBC 学園の誓い」=教育理念のエビデンスをコンテンツごとに配置している。

(4) 運営管理責任者として、役立つと感じた知識、技術・スキル、特性

社会で求められている人材育成・成績を上げることでできる人物モデルを作ることが出来た。また、この取り組みを広く認知したい。

(5) それらをどのように身につけたか、または身につけられると思うか

課題は教員によって能力差があるので、いかに平準化して同質の学修成果をあげられるかである。これについてはテキストだけの制作ではなく、職員の意識や学校の風土を作ることが出来て初めて効果を発揮する。教育理念についてはどこの学校もあると思うが、具体的にそれに対してどう行動しているかを作品化したものが「志学」である。

3-4. 考察及びまとめ

(1) 情報公開と広報活動・広報制作物の関連性について

本事業では、各種関連業務を担う専門スタッフ養成プログラムを開発・促進することで専修学校の質保証・向上を図っていくことを目的としており、このヒアリング調査では、情報公開を活用した広報・募集活動を具体的に計画し、推進できる人材の養成に役立つ好事例の抽出を試みた。ヒアリングに対応いただいた6校は、いずれも好事例を有しており、他校の参考になる多くの情報を得ることができた。ヒアリング結果をまとめると、次のようになる。

調査対象	学校法人三友学園 専門学校岡山情報ビジネス学院	学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ	学校法人穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ/穴吹ビジネスカレッジ
(1)情報公開と広報活動・広報制作物の関連性	学生をいかに集めるかではなく、来てくれた学生の満足度を上げることに注力。実績をありのままに出す。	APを募集要項に掲載しているが、十分には活用できていない。CP・DPは策定できていない。他はHPにて情報公開。	メインパンフ、カリキュラムブック、HPに掲載、OC等で説明 カリキュラムブックは、就職先企業からの評価が予想以上に高かった。
(2)効果を上げている手法・広報制作物	他校が真似をできない資料を作る(就職実績をすべて公表)。 CAREER VISION	学校訪問がメイン。 学園報「Ryomajin」(年3回) 各校の「HOT NEWS」	カリキュラムブック
(3)広報活動・広報制作物に関する効果測定・評価の方法	素早くこまめにPDCAを回していくことが重要で、毎週土曜日にOC後のアンケート分析を行い、学科ごとの満足度をチェック(エビデンス重視)。	①年間スケジュールを作成+臨機応変に ②高校教諭・保護者・生徒の反応を材料として評価 ③募集広報班と学園幹部	①Web関連は外部業者による効果測定、分析、広報サポートを実施。 ②「目標とする人材像」という観点で評価。評価軸、評価手法は学科ごとに異なる。
【摘要】	詳細な実績紹介による情報公開のポジティブな活用	高校への緊密なアプローチの充実	カリキュラムブックによる「目標とする人材像」の明確化と一覧化

調査対象	学校法人YIC学院 YIC 情報ビジネス専門学校	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ	学校法人KBC学園
(1)情報公開と 広報活動・広 報制作物の関 連性	「OC は楽しければ良い」 から、3ポリシーをしっかり 伝え、保護者の支持を得 られる情報提供の場へと 捉え直した。	教育理念、教育目的、育 成人材像に基づき DP・ CP・AP を策定。 募集要項を複数校で共用 するようになった。	3 つのポリシーを学科ごと に作成し、情報公開を実 施。「カリキュラムマップ」 により、AP・CP・DPの流れ が分かるようにしている。
(2)効果を上げ ている手法・広 報制作物	学科説明ハンドアウト(持 ち帰り資料) インタビュー動画	Zoomを使ったOC、オンラ インコンテンツ(YouTube による視聴型)。RiSE(情 報誌)	クレドカード、LINE登録、 「志学」(人間性の育成)
(3)広報活動・ 広報制作物に 関しての効果 測定・評価の 方法	①毎週月曜日に募集状 況の数値を確認し、毎月 行われる経営会議にて報 告。②学生募集に関する 数値。③広報戦略室と各 校の運営責任者	①3つのポリシーを活用し PDCAを回す。 ②資料請求数、OC への 動員数など、募集に対す る効果を数値で把握。	①毎月一覧表を作成し実 施。 ②LINE 登録数 ③副校長、事務局長、教 務部長。
【摘 要】	学科説明ハンドアウトの活 用による3つのポリシーの 周知	3つのポリシーの効果的な 策定とPDCA	「クレドカード」と「KBC 学 園の誓い」による理念の共 有

(2) 研修プログラムの開発について

上記の調査結果をもとにして、学校運営管理責任者向け研修「情報公開を通じた学校の魅力を向上させる経営戦略の検討」を開催した。この研修は、成功事例を持つ学校の担当者及び学校運営管理責任者に事例を紹介していただき、それを踏まえて、受講者自身がそれに取り組む場合の可能性や課題をグループワークとパネルディスカッションにより検討し、整理するというものである。カリキュラムは以下のとおりである。

◆カリキュラム内容

時 間	内 容
第1日目（令和4年1月26日）	
12:30～	開場・受付開始（受付で名刺を2枚いただきます）
13:00～13:10	研修内容説明、開講挨拶
13:10～13:30	事例発表 「詳細な実績紹介による情報公開のポジティブな活用」 学校法人 三友学園 専門学校岡山情報ビジネス学院
13:30～14:10	グループワーク
14:10～14:40	パネルディスカッション
14:40～14:50	休憩

14:50～15:10	事例発表 「学科説明ハンドアウトの活用による3つのポリシーの周知」 学校法人 Y I C学院 Y I C情報ビジネス専門学校
15:10～15:50	グループワーク
15:50～16:20	パネルディスカッション
16:20～16:30	総括
第2日目（令和4年1月27日）	
8:40～	開場・受付開始
9:10～9:30	事例発表 「3つのポリシーの効果的な策定とP D C A」 学校法人 麻生塾 麻生専門学校グループ
9:30～10:10	グループワーク
10:10～10:40	パネルディスカッション
10:40～10:50	休憩
10:50～11:10	事例発表 「カリキュラムブックによる「目標とする人材像」の明確化と一覧化」 学校法人 穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ
11:10～11:50	グループワーク
11:50～12:20	パネルディスカッション
12:20～12:30	総括・閉講挨拶

4. 職業教育マネジメントに関するアンケート調査

4-1. 調査方法

(1) 調査手法

本調査では、専修学校の質保証・向上を図るために期待されている職業教育マネジメントの実態を把握し、本事業が開発する専門スタッフ育成プログラム開発の基礎資料とする。

なお、アンケート調査の実施にあたっては、インターネットを利用した(Google Forms 利用)。

(2) 調査対象

一般社団法人全国専門学校教育研究会会員校等 約 130 校

(3) 調査期間

アンケート調査への回答期間： 令和 4 年 2 月 3 日～2 月 10 日

4-2. 調査項目

職業教育マネジメントの実情及び研修実施の要望等について、下記の項目にてアンケート調査を行う。調査項目は、基本事項1～11及び設問1～12からなる。

【基本事項】

1. 学校法人名

2. 学校名

3. 学校の所在地域を選択してください。

北海道、東北、関東信越、東海北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄

4. 所属する学校の学科数(学科の下のコース数ではなく、学科数でご回答ください。)

5. いわゆる「指定養成施設」ですか(学科の一部のみ指定されている場合も「はい」とご回答ください。)(はい/いいえ/わからない)

6. 職業実践専門課程の認定を受けている学科がありますか(はい/いいえ/わからない)

7. 所属する学校の分野系統を回答してください。(複数回答可)

工業分野／農業分野／医療分野／衛生分野／教育・社会福祉分野／

商業実務分野／服飾・家政分野／文化・教養分野

8. 以降は、ご回答者様について教えてください。役職名をご回答ください。(記述式)

9. 現在までの社会人歴の年数(合計)をご回答ください。(例:端数は切り上げてください。5年3ヶ月の場合は「6」と回答してください。企業等での勤務歴および学校での勤務歴の合計となります。)

10. 現在までの教員歴の年数(合計)をご回答ください。(例:端数は切り上げてください。5年3ヶ月の場合は「6」と回答してください。他の学校、学校種のものも含めてください。)
11. 教員免許をお持ちですか。いずれの学校種、教科であっても結構です。

【設問】

以下の設問(設問1～12)に、それぞれ6段階評価にてお答えください。

- 6:「できている(定期的に行えているなど)」または「そう思う」、
 5:「概ねできている」または「概ねそう思う」、
 4:「どちらかといえばできている」または「どちらかといえばそう思う」、
 3:「どちらかといえばできていない」または「どちらかといえばそう思わない」、
 2:「ほとんどできていない」または「あまりそう思わない」、
 1:「できていない」または「そう思わない」

【設問 1】計画(P)を立てる際に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)等の策定・見直し」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(できていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)等の策定・見直し」の具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 2】計画(P)を立てる際に役立てられる「企業等との意見交換」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(できていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「企業等との意見交換」を活性化させる具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 3】計画(P)作成時に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)に基づく、各学科における学習目標の設定」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(できていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						

3	「卒業認定の方針に基づく、各学科における学習目標の設定」の具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						
---	---	--	--	--	--	--	--

【設問 4】計画(P)作成時に行われる「学習目標に基づく教育課程の編成やカリキュラムマップの策定」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(できていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「学習目標に基づく教育課程の編成やカリキュラムマップの策定」の具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 5】計画(P)作成時に行われる「統一された様式に基づくシラバス作成」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(できていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「統一された様式に基づくシラバス作成」を学校全体で進めるための具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 6】日々の教育活動の実践として行われる「シラバスに基づく、授業の実施と達成度の確認」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(できていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「シラバスに基づく、授業の実施と達成度の確認」の好事例紹介を交えた具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 7】教育活動の実践として行われる「日々の授業の見直し、及び単元ごとの授業の見直し」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか (成績や授業アンケート等の結果を踏まえての見直しができていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「日々の授業の見直し、及び単元ごとの授業の見直し」の好事例紹介を交えた具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 8】教育の質保証を目的とした評価活動として行われる「成績、出欠状況、授業アンケート等のデータの収集・分析」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか (分析結果を単元ごとの授業の見直しに役立っていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「成績、出欠状況、授業アンケート等のデータの収集・分析」の好事例の紹介を交えた具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 9】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動として行われる「教員への授業改善支援(学期/学年ごと)」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか (分析結果を単元ごとの授業の見直しに役立っていますか。)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「教員への授業改善支援」の好事例の紹介を交えた具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含みます。)						

【設問 10】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動のための情報収集として行われる「卒業時の評価(就職率や成績、卒業時アンケート等の収集・分析)」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか (卒業時の学修成果の分析が行えているか)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						

3	「卒業時の評価」の好事例紹介を交えた具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含まれます。)						
---	---	--	--	--	--	--	--

【設問 11】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動のための情報収集として行われる「企業による卒業生評価(卒後数年程度の卒業生に対するアンケート調査や就職先企業等へのヒアリング調査など、卒業後の追跡調査)」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(卒業後の追跡調査が行えているか)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「企業による卒業生評価」の好事例紹介を交えた具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含まれます。)						

【設問 12】教育の質保証及び質の向上のために行われる「部下の育成(教職員の育成)」について

		6	5	4	3	2	1
1	ご自身の勤務している学校の現状はいかがですか(部下の育成が十分に行えているか)						
2	実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できますか(上記でできていると回答した場合には6を選択してください。)						
3	「部下を育成するためのマネジメント」の具体的な手順についての研修があれば参加しますか(部下の方を参加させたい場合も含まれます。)						

4-3. 調査結果

(1) アンケート調査集計結果

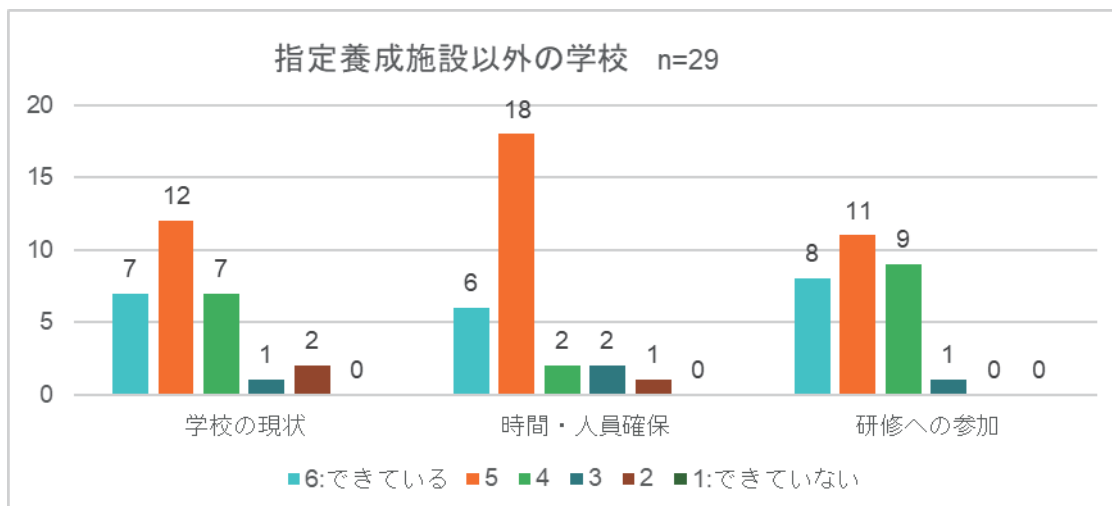
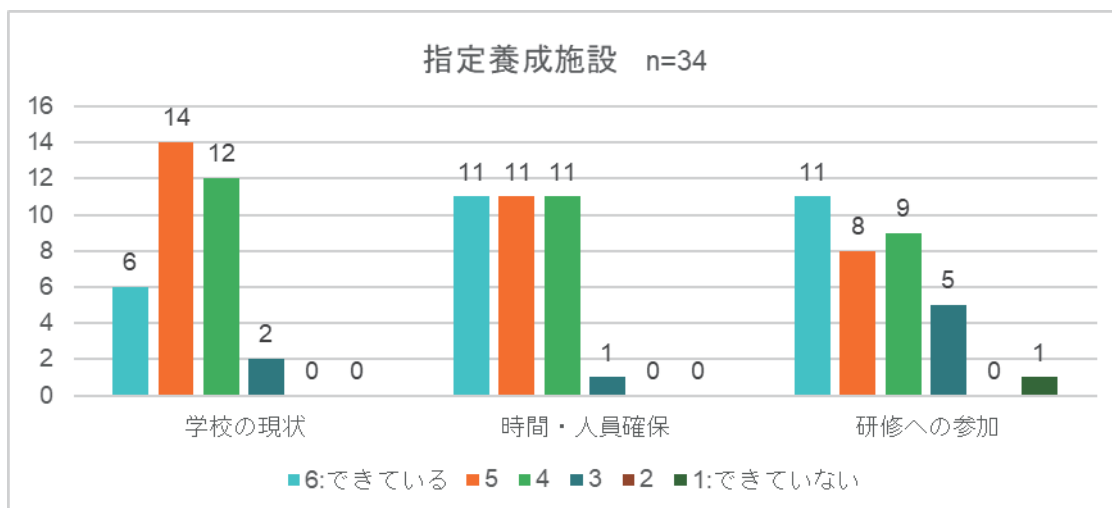
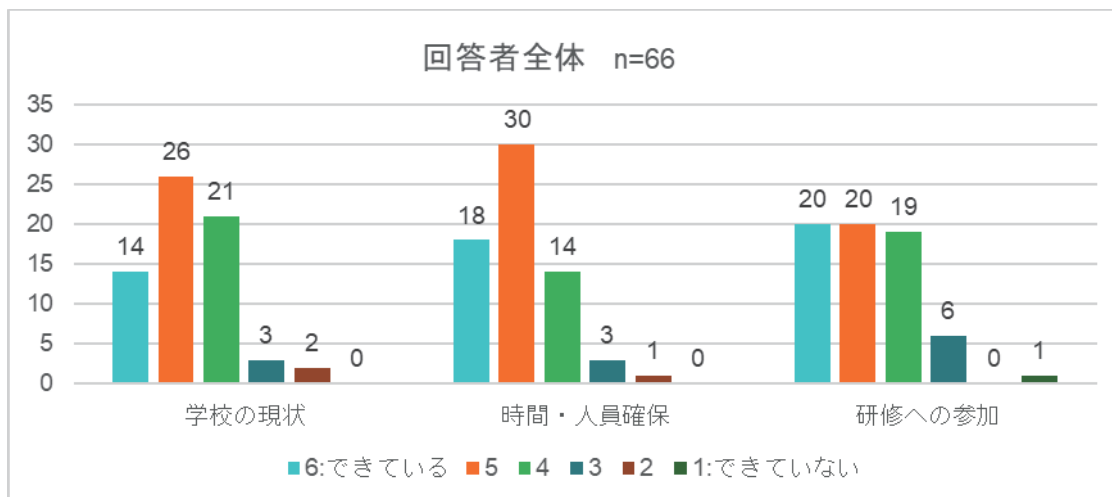
アンケート調査結果を以下に記す。なお、回答数(全体)は 66 件である。これらのうち、指定養成施設となっている学校が 34 件、指定養成施設以外の学校が 29 件であり、また、5 学科以上の学科数を有する学校が 29 件、4 学科以内の学校が 37 件となっている。

下表では、それぞれの平均値を算出し、青・白・赤のカラースケールで示した。

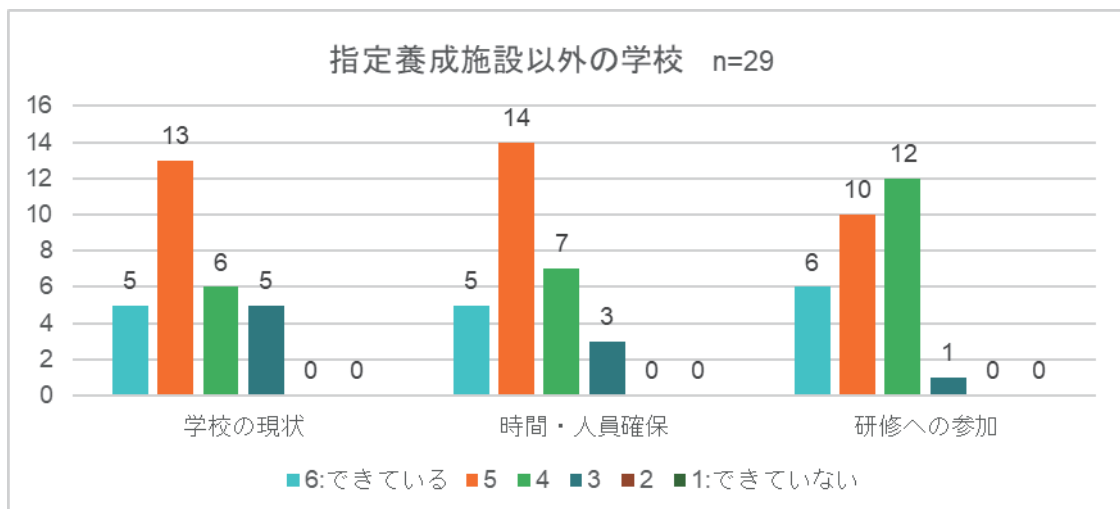
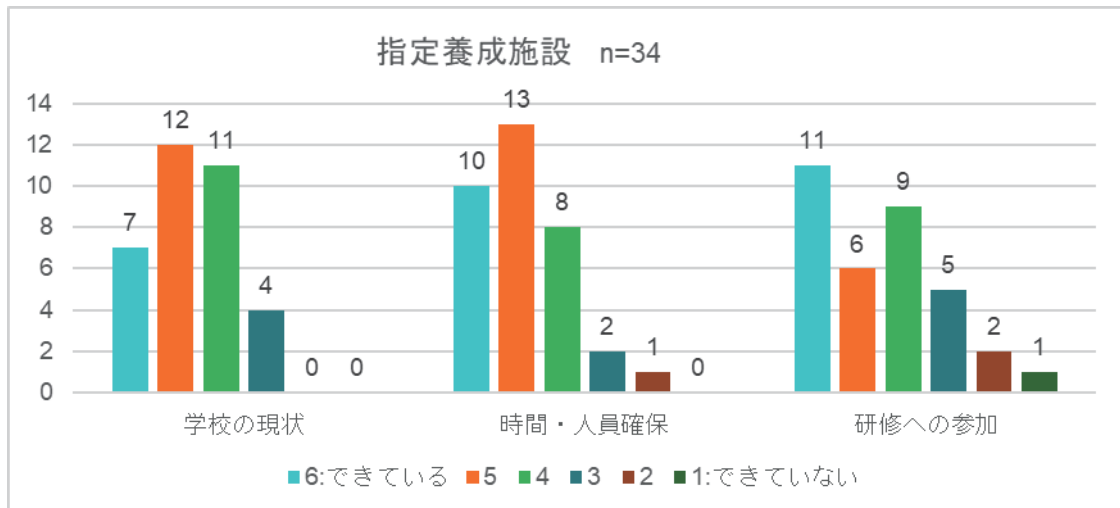
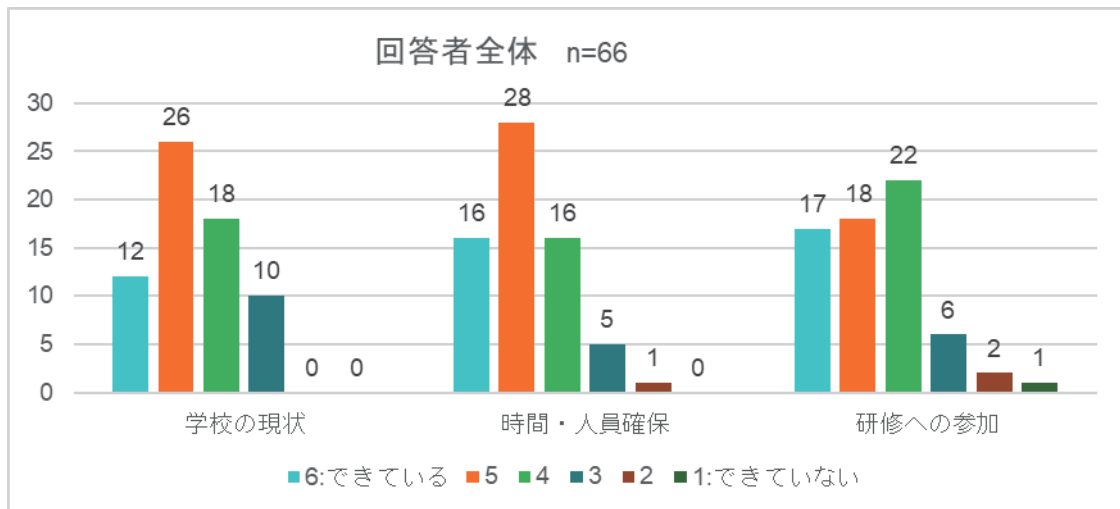
設問内容	細目	全体平均	指定養成施設平均	養成施設以外平均	学科数多い平均	学科数少ない平均
1.計画(P)を立てる際に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)等の策定・見直し」	①学校の現状	4.71	4.71	4.72	4.72	4.81
	②時間・人員確保	4.92	4.94	4.90	4.97	5.03
	③研修への参加	4.77	4.65	4.90	4.66	4.97
2.計画(P)を立てる際に役立てられる「企業等との意見交換」	①学校の現状	4.61	4.65	4.62	4.59	4.73
	②時間・人員確保	4.80	4.85	4.72	4.83	4.92
	③研修への参加	4.59	4.47	4.72	4.62	4.68
3.計画(P)作成時に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)に基づく、各学科における学習目標の設定」	①学校の現状	4.82	5.00	4.62	4.86	4.92
	②時間・人員確保	5.02	5.15	4.83	5.07	5.11
	③研修への参加	4.56	4.38	4.83	4.52	4.70
4.計画(P)作成時に行われる「学習目標に基づく教育課程の編成やカリキュラムマップの策定」	①学校の現状	4.56	4.53	4.69	4.45	4.73
	②時間・人員確保	4.91	4.85	4.97	5.00	4.95
	③研修への参加	4.68	4.50	4.93	4.62	4.84
5.計画(P)作成時に行われる「統一された様式に基づくシラバス作成」	①学校の現状	4.91	4.94	4.86	4.93	4.97
	②時間・人員確保	5.11	5.15	5.03	5.17	5.19
	③研修への参加	4.59	4.32	4.90	4.34	4.89
6.日々の教育活動の実践として行われる「シラバスに基づく、授業の実施と達成度の確認」	①学校の現状	4.29	4.38	4.14	4.17	4.46
	②時間・人員確保	4.59	4.56	4.66	4.66	4.68
	③研修への参加	4.70	4.56	4.83	4.55	4.92
7.教育活動の実践として行われる「日々の授業の見直し、及び単元ごとの授業の見直し」について	①学校の現状	4.23	4.35	4.10	4.24	4.30
	②時間・人員確保	4.59	4.62	4.55	4.79	4.57
	③研修への参加	4.61	4.47	4.76	4.52	4.78
8.教育の質保証を目的とした評価活動として行われる「成績、出欠状況、授業アンケート等のデータの収集・分析」	①学校の現状	4.52	4.62	4.52	4.52	4.57
	②時間・人員確保	4.76	4.82	4.76	4.86	4.78
	③研修への参加	4.62	4.56	4.72	4.59	4.76
9.教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動として行われる「教員への授業改善支援(学期/学年ごと)」	①学校の現状	4.12	4.29	3.93	4.14	4.22
	②時間・人員確保	4.64	4.59	4.66	4.79	4.65
	③研修への参加	4.83	4.68	5.00	4.90	4.92
10.評価改善活動のための情報収集として行われる「卒業時の評価(就職率や成績、卒業時アンケート等の収集・分析)」	①学校の現状	4.55	4.76	4.34	4.48	4.73
	②時間・人員確保	4.80	4.85	4.76	4.90	4.86
	③研修への参加	4.53	4.38	4.72	4.38	4.76
11.「企業による卒業生評価(卒業後数年度の卒業生に対するアンケート調査や就職先企業等へのヒアリング調査など、卒業後の追跡調査)」	①学校の現状	3.42	3.62	3.21	3.41	3.57
	②時間・人員確保	4.26	4.41	4.00	4.45	4.24
	③研修への参加	4.47	4.29	4.69	4.52	4.54
12.教育の質保証及び質の向上のために行われる「部下の育成(教職員の育成)」	①学校の現状	3.89	4.09	3.72	3.59	4.22
	②時間・人員確保	4.52	4.53	4.48	4.62	4.57
	③研修への参加	4.92	4.82	5.07	4.72	5.19

(2) 指定養成施設と指定養成施設以外の専門学校の比較

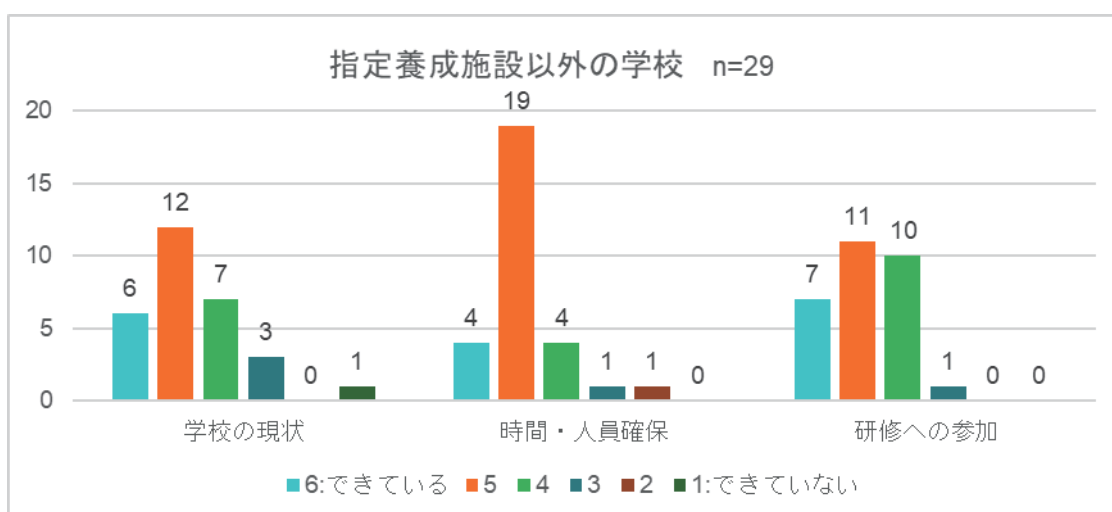
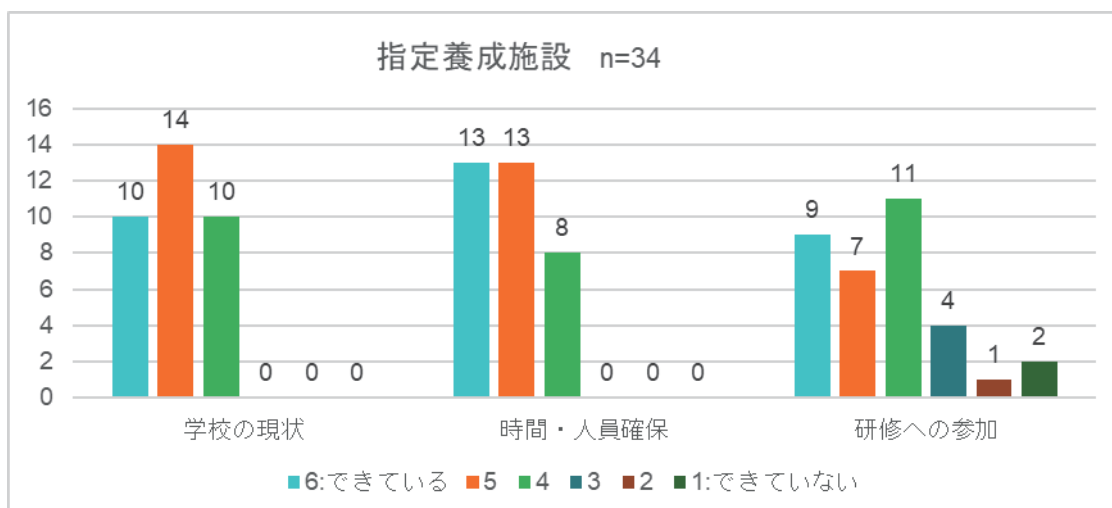
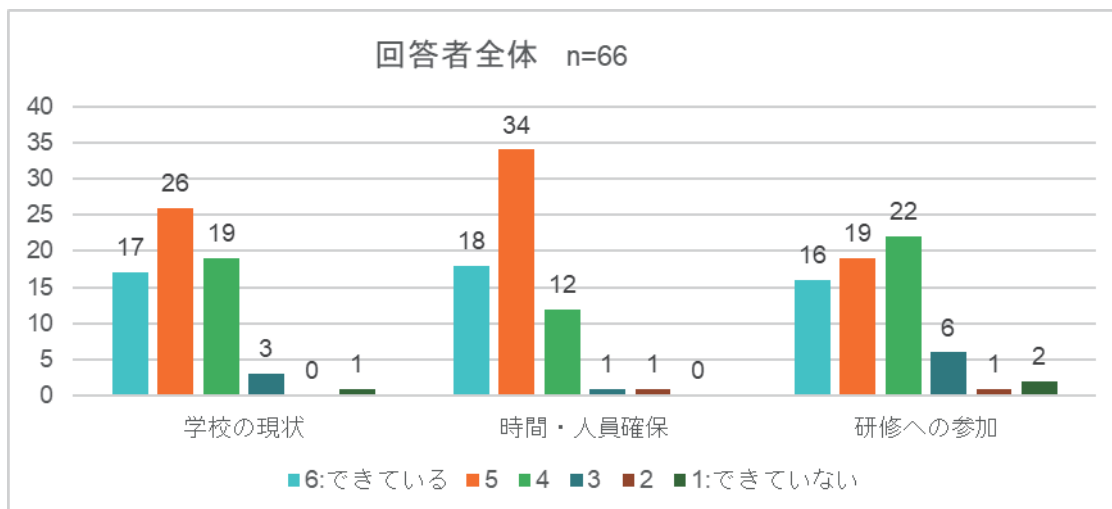
【設問 1】 計画(P)を立てる際に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー等の策定・見直し)について



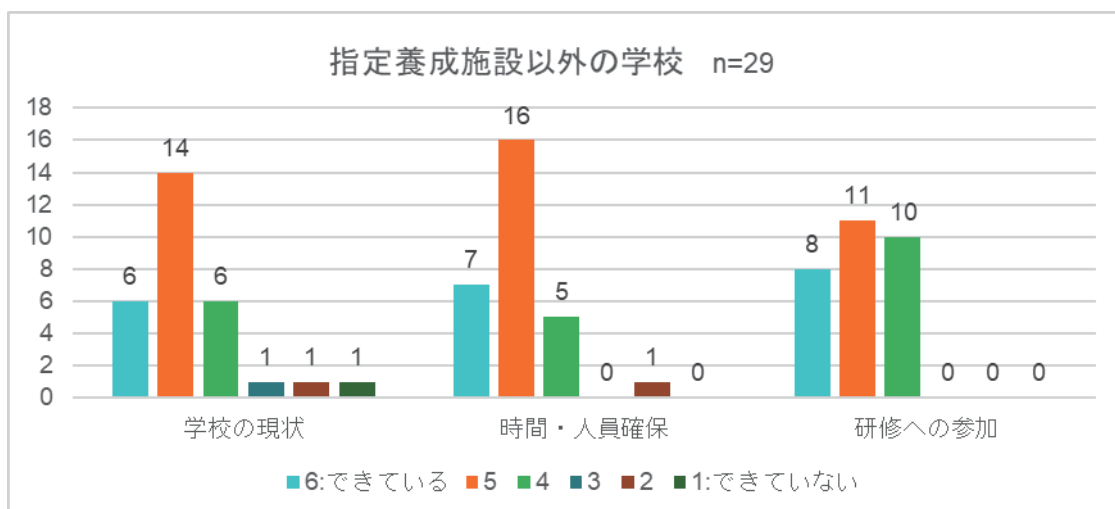
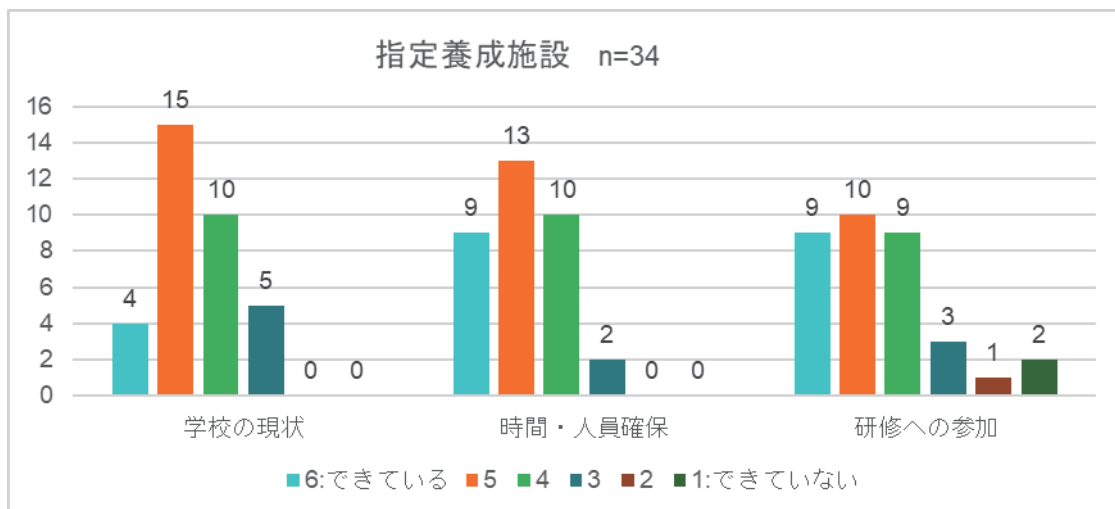
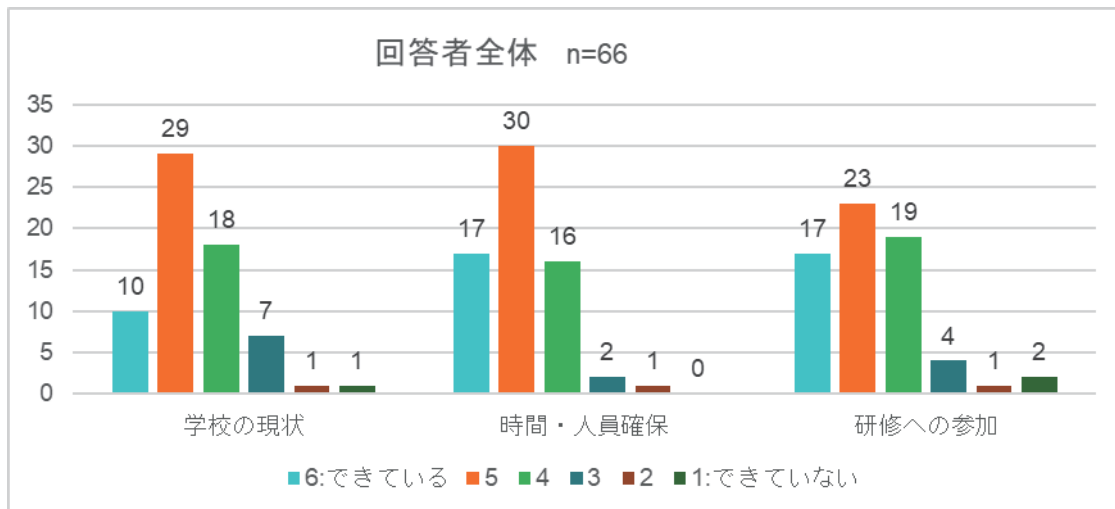
【設問 2】計画 (P) を立てる際に役立てられる「企業等との意見交換」について



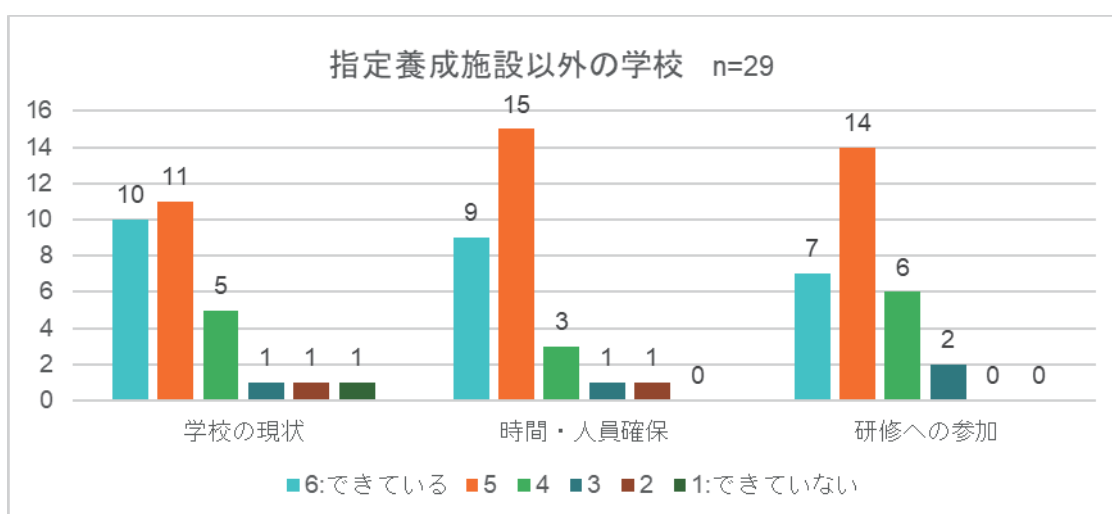
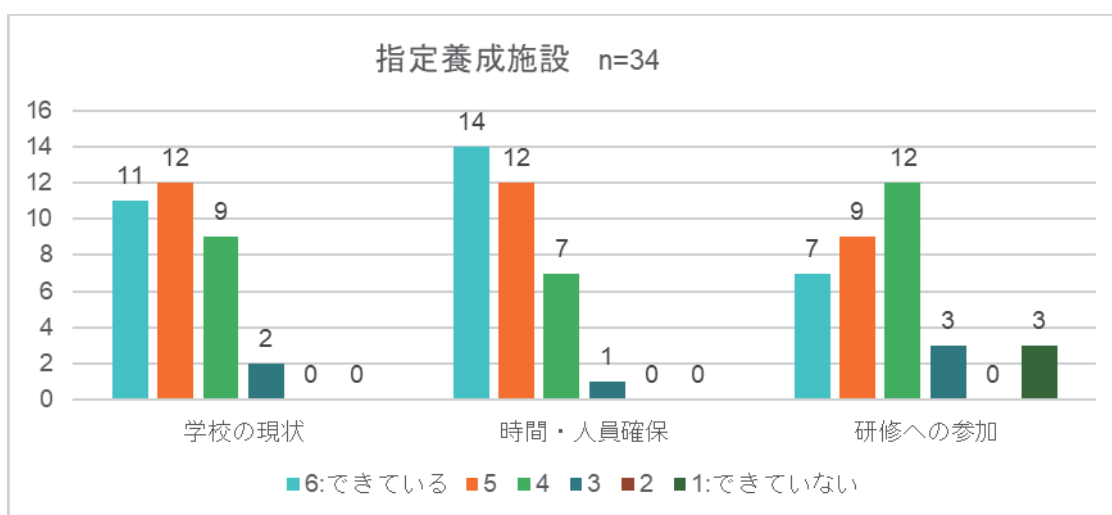
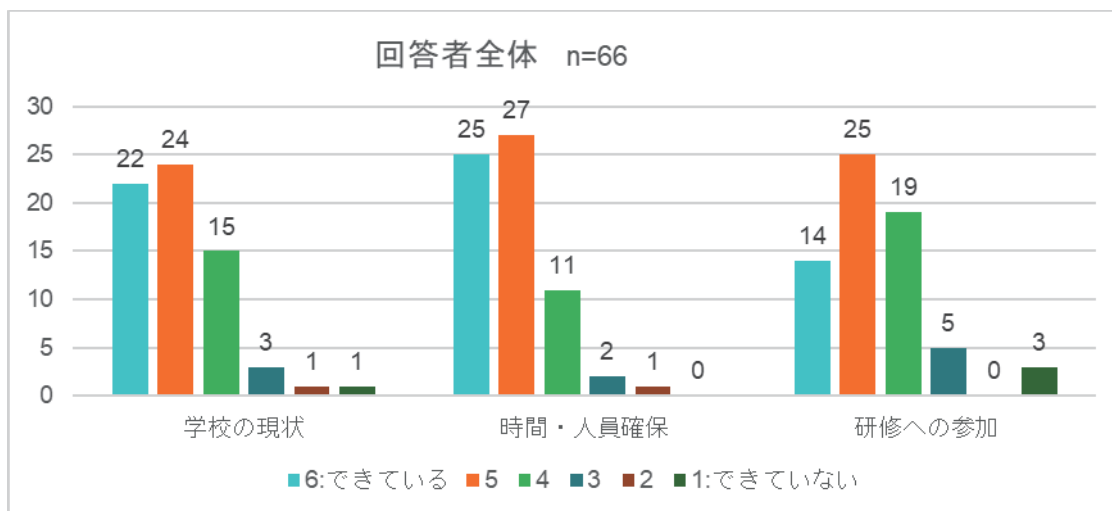
【設問3】計画(P)作成時に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)に基づく、各学科における学習目標の設定」について



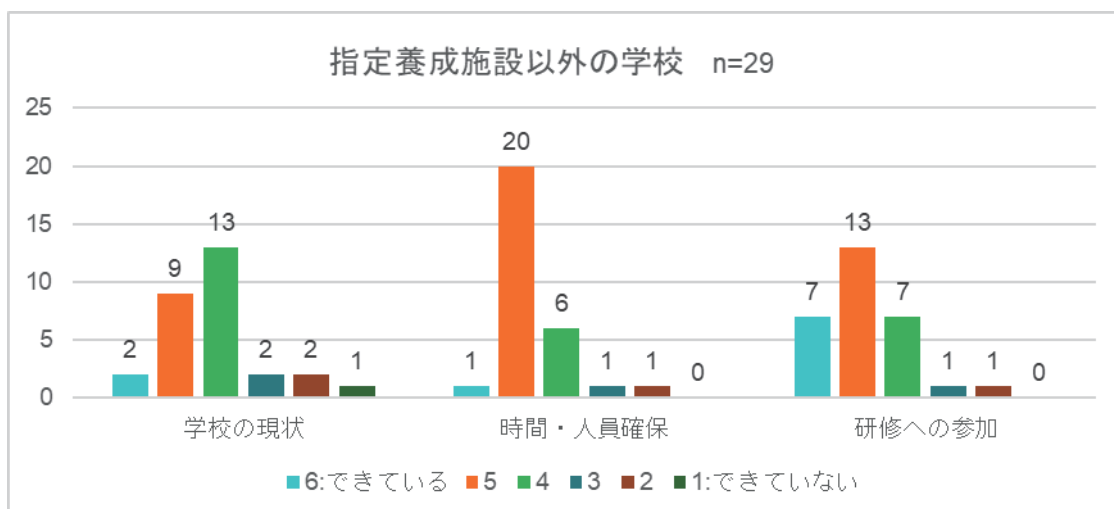
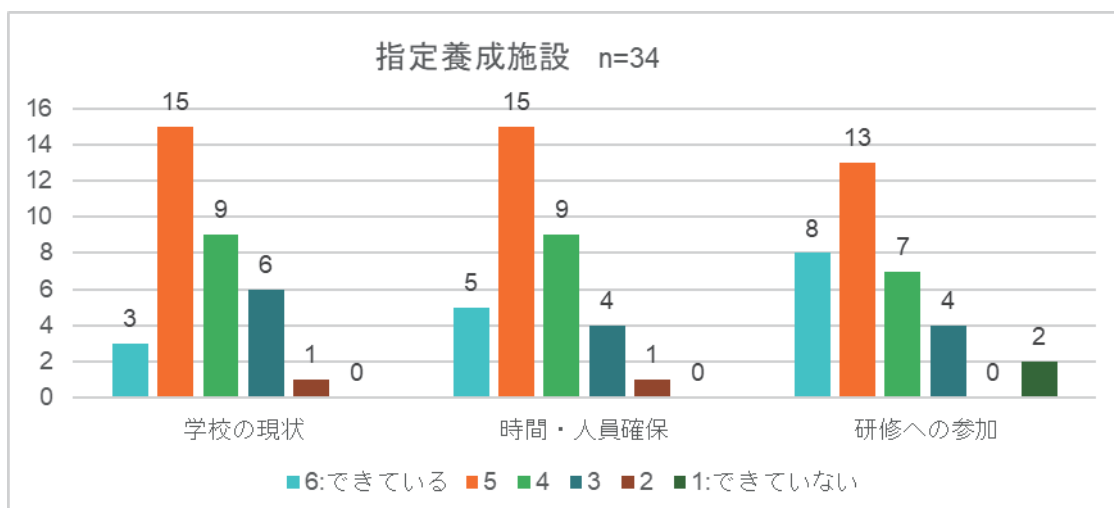
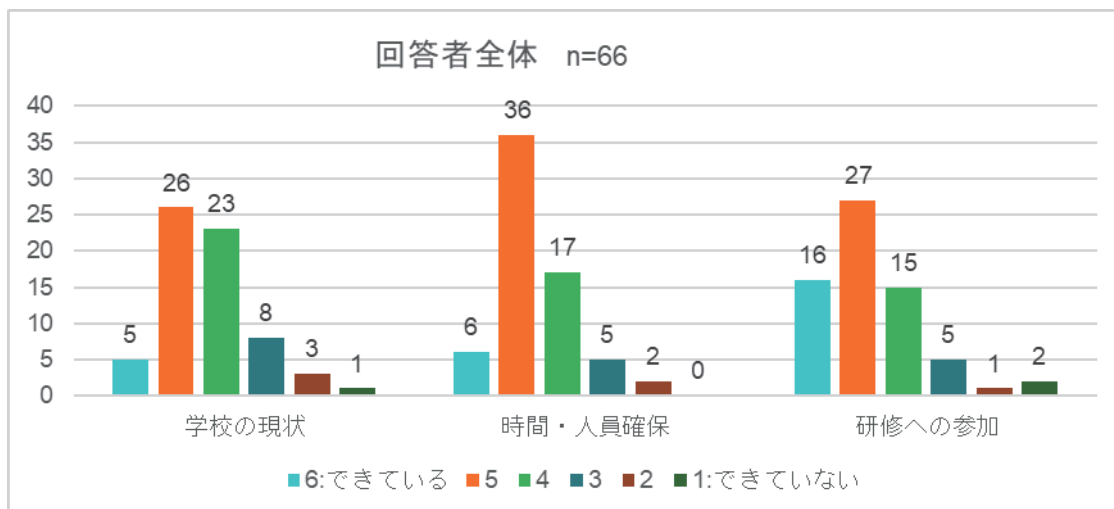
【設問 4】計画(P)作成時に行われる「学習目標に基づく教育課程の編成やカリキュラムマップの策定」について



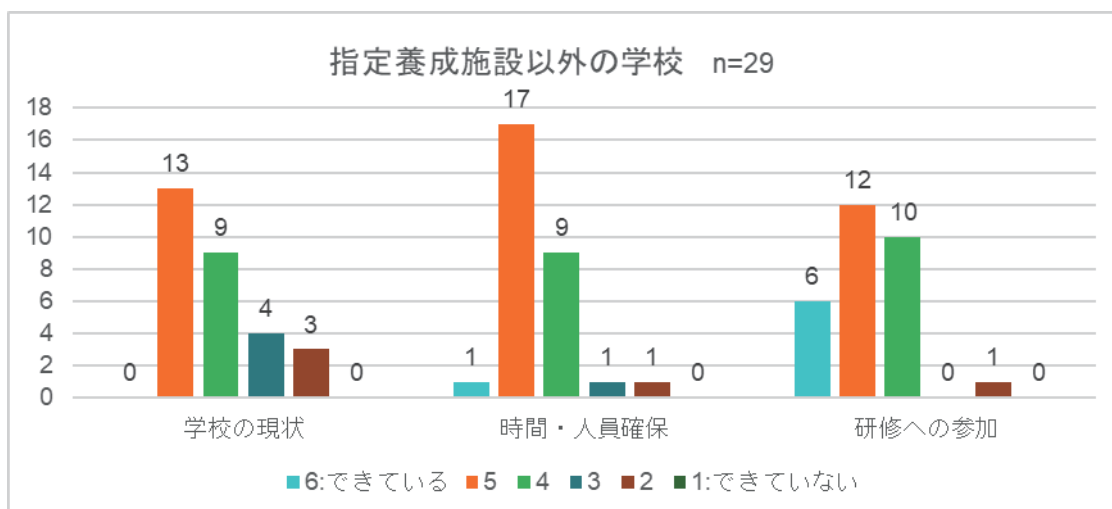
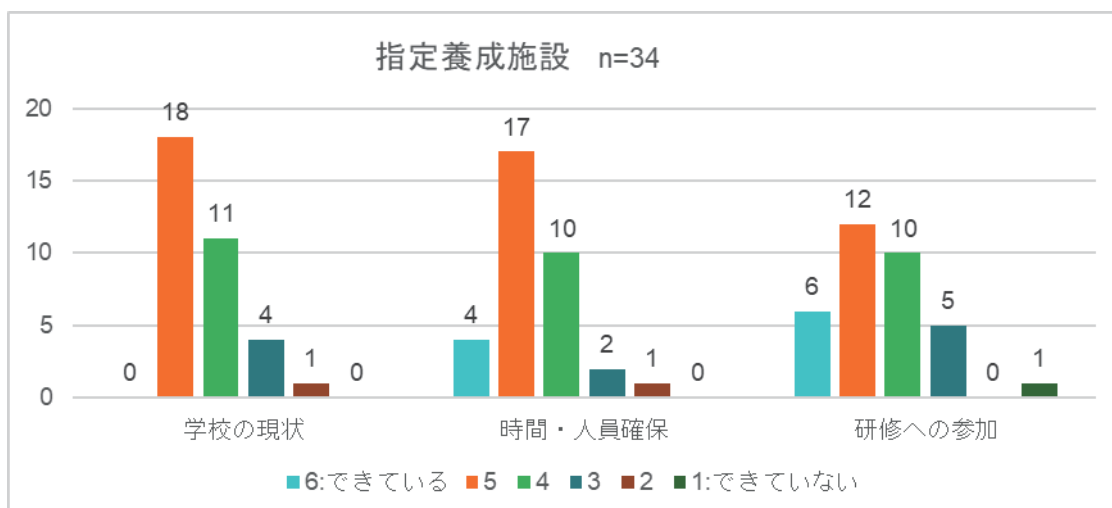
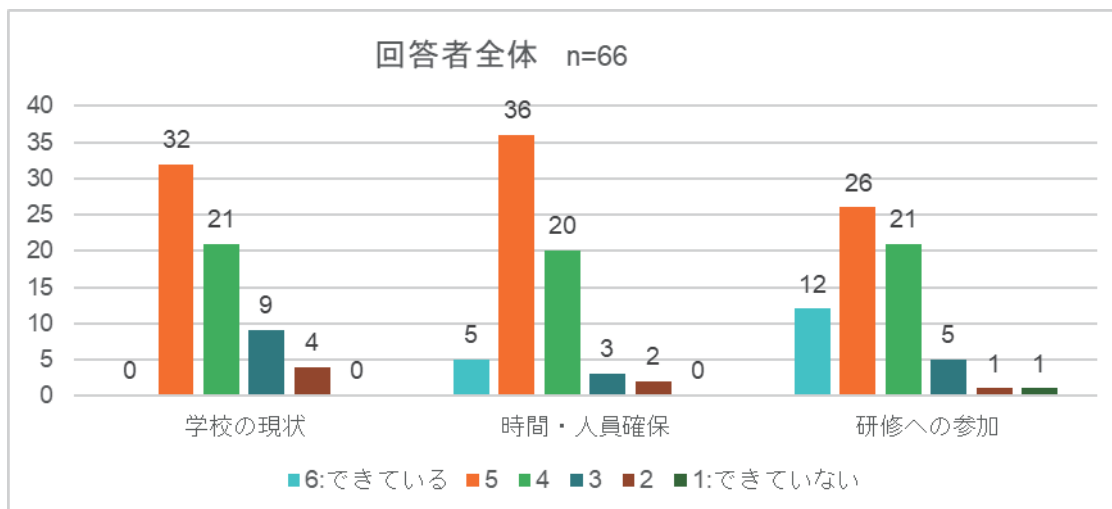
【設問 5】計画 (P) 作成時に行われる「統一された様式に基づくシラバス作成」について



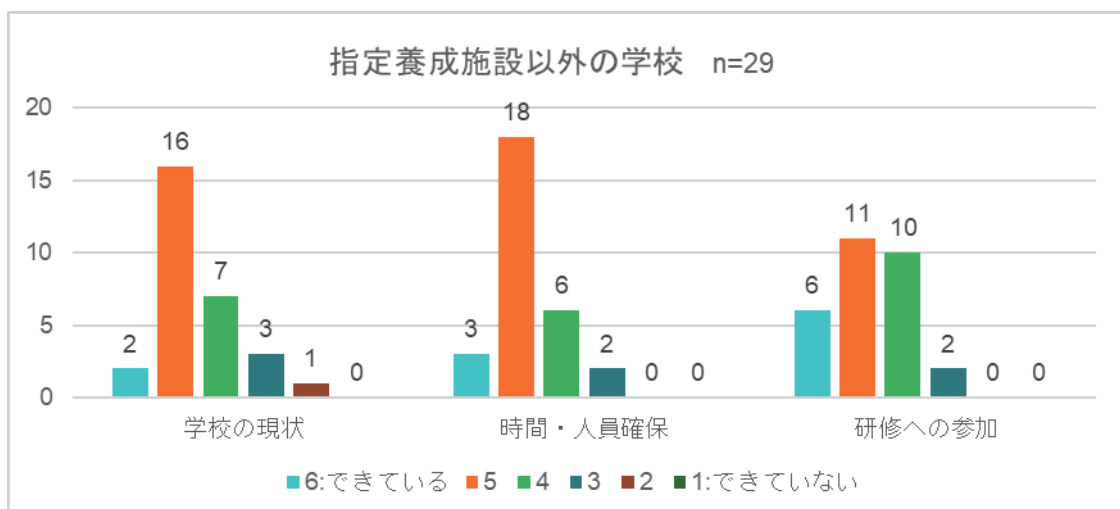
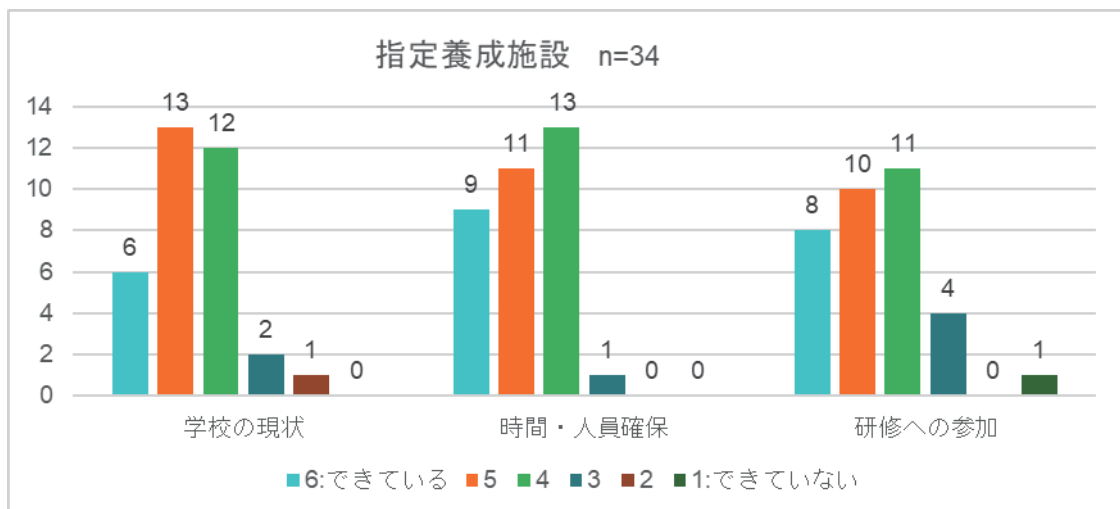
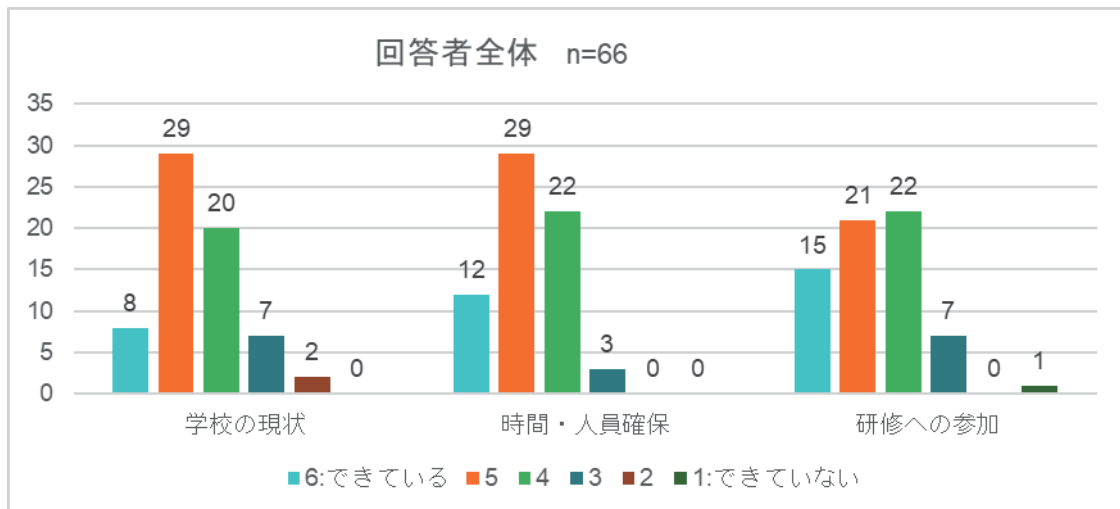
【設問 6】日々の教育活動の実践として行われる「シラバスに基づく、授業の実施と達成度の確認」について



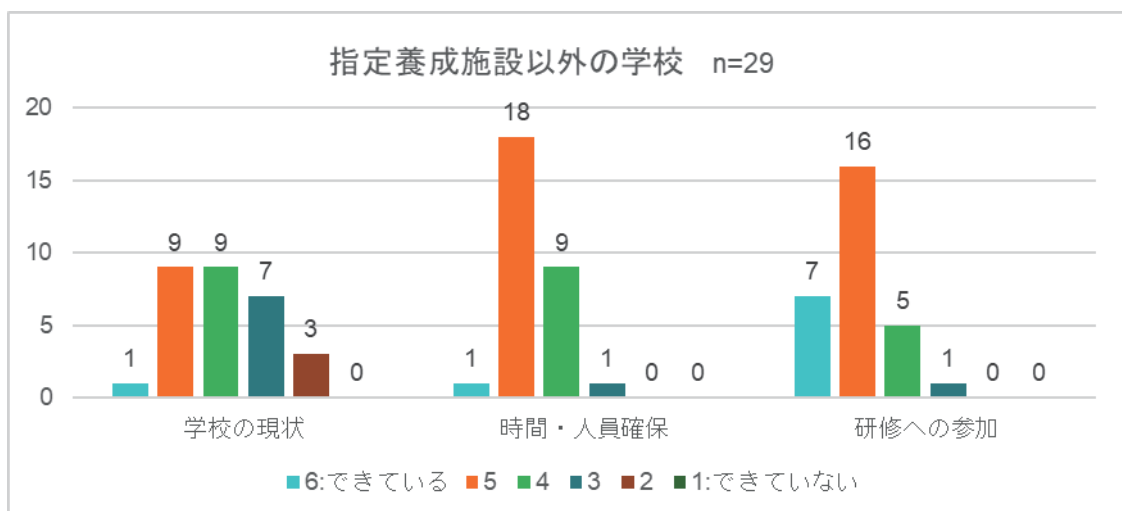
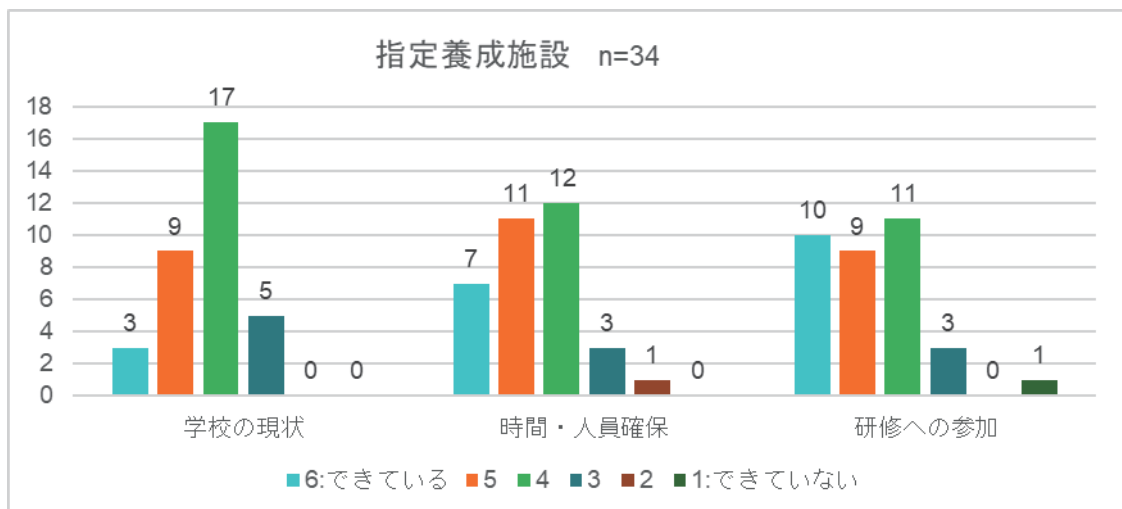
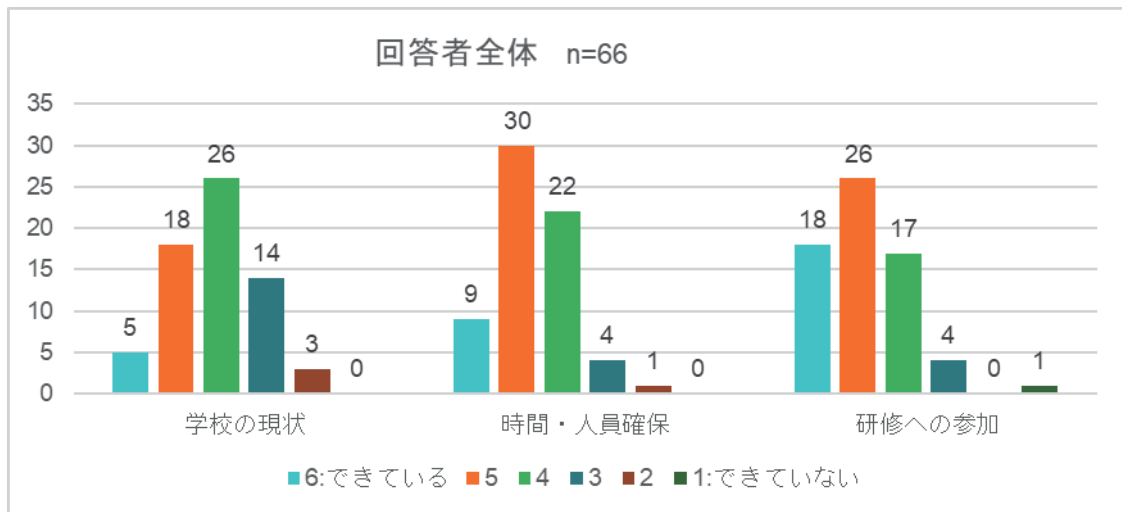
【設問 7】教育活動の実践として行われる「日々の授業の見直し、及び単元ごとの授業の見直し」について



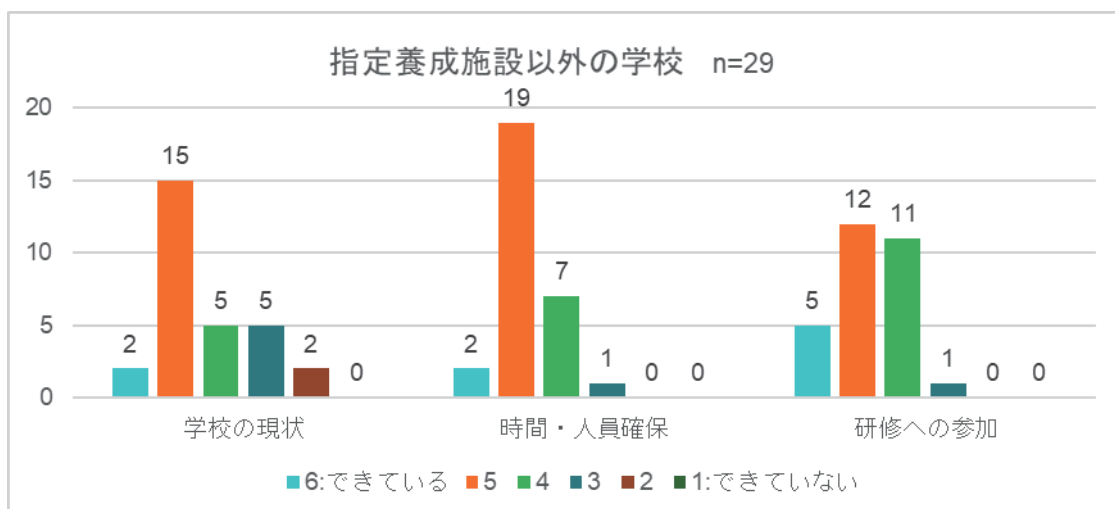
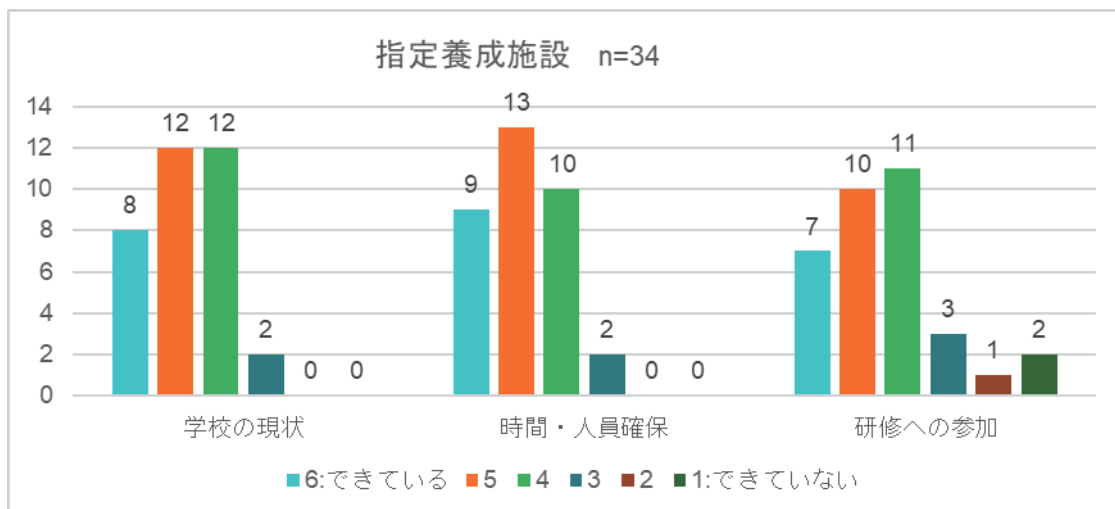
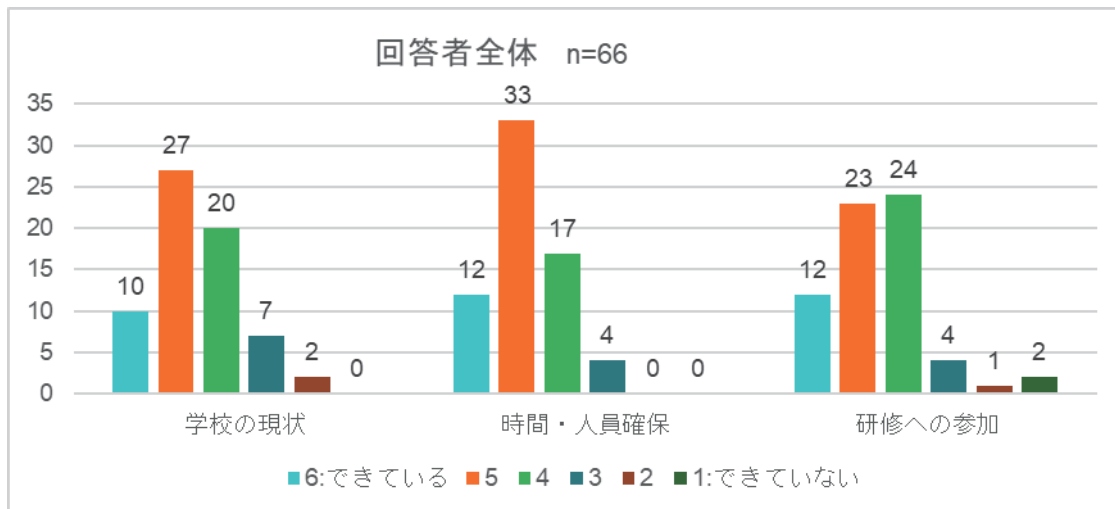
【設問 8】教育の質保証を目的とした評価活動として行われる「成績、出欠状況、授業アンケート等のデータの収集・分析」について



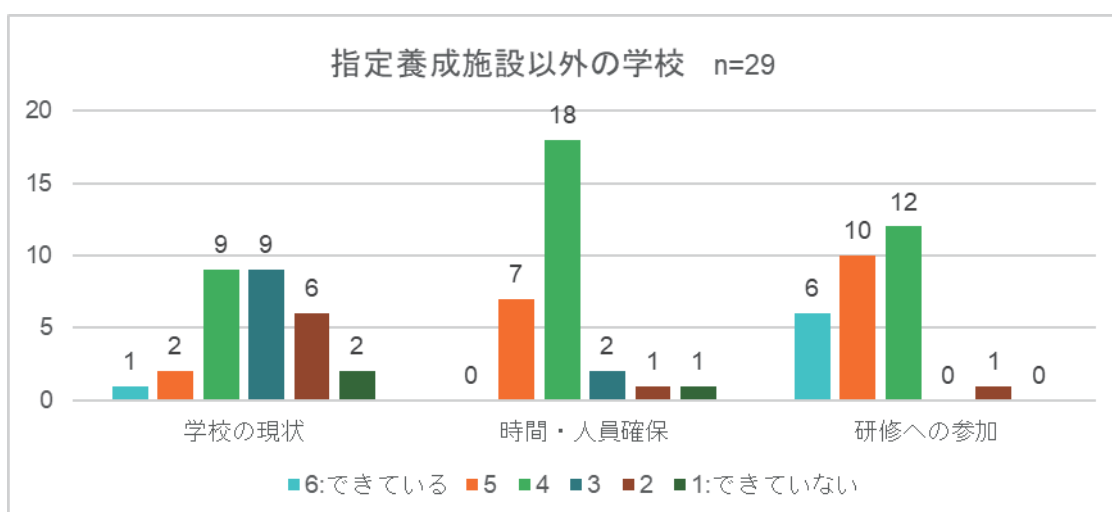
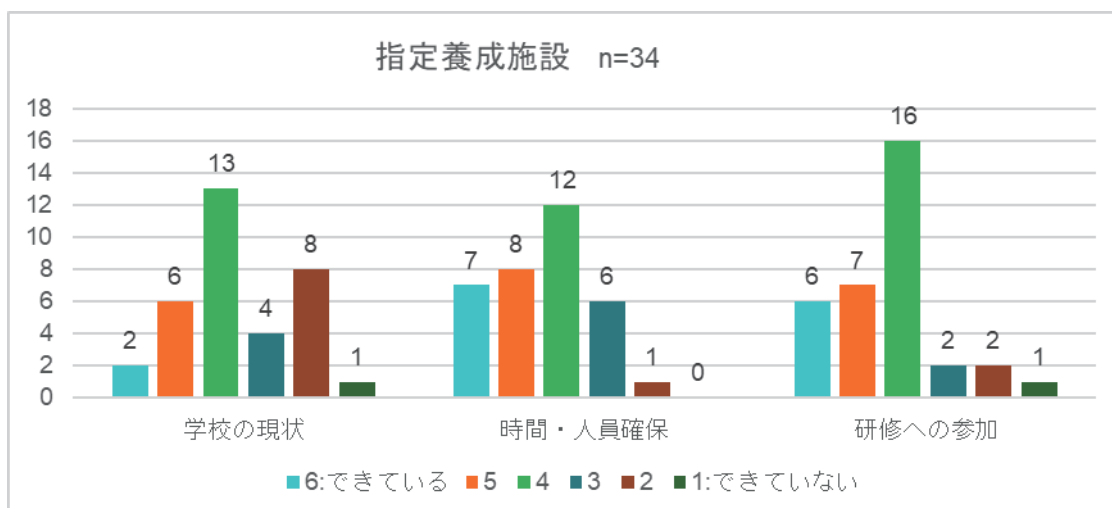
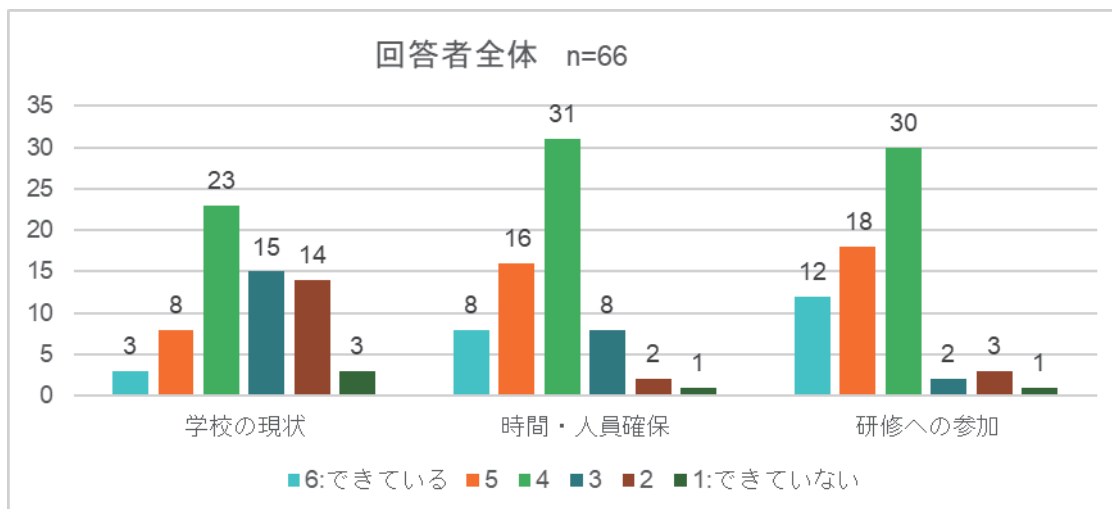
【設問 9】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動として行われる「教員への授業改善支援(学期/学年ごと)について」について



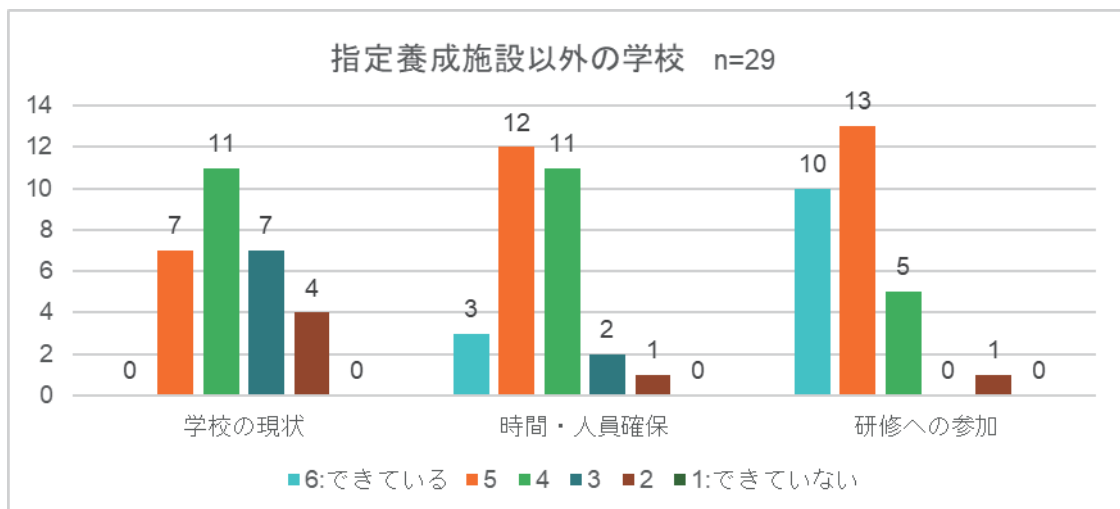
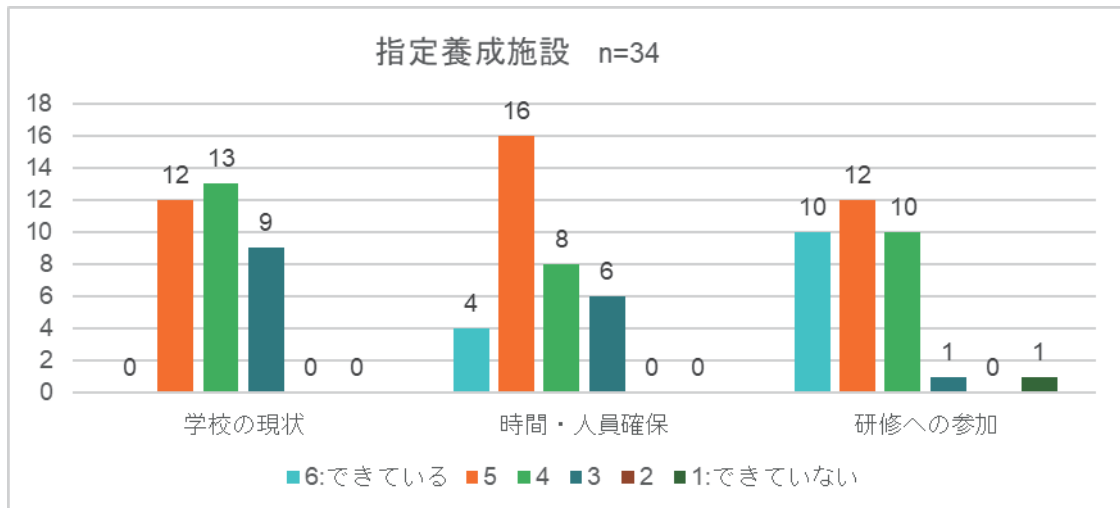
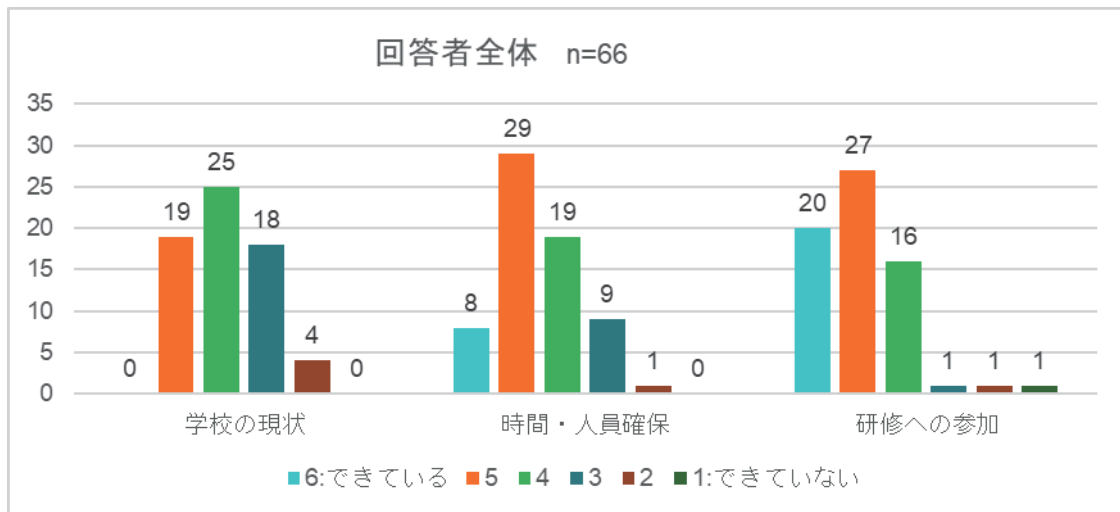
【設問 10】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動のための情報収集として行われる「卒業時の評価(就職率や成績、卒業時アンケート等の収集・分析)」について



【設問 11】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動のための情報収集として行われる「企業による卒業生評価(卒業後数年程度の卒業生に対するアンケート調査や就職先企業等へのヒアリング調査など、卒業後の追跡調査)」について

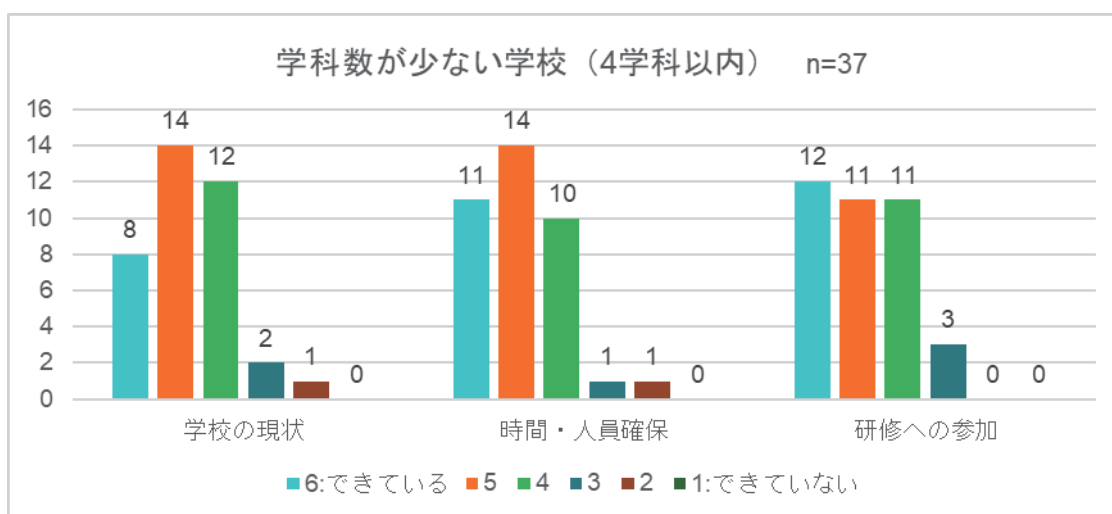
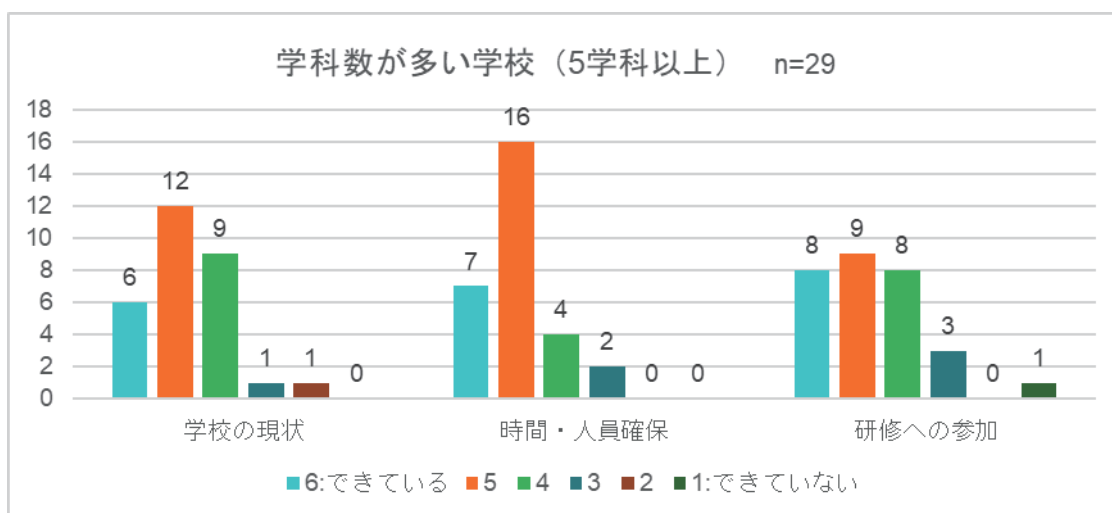
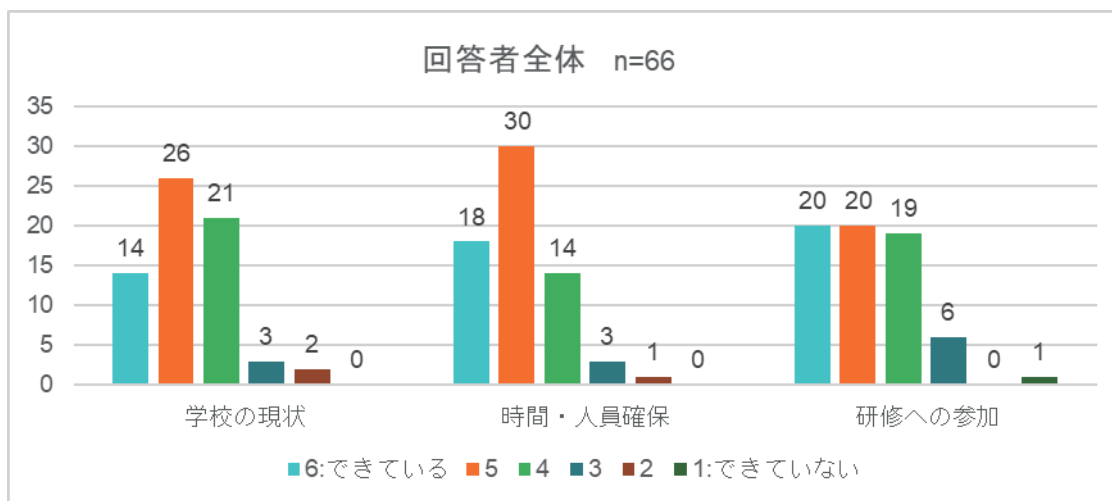


【設問 12】教育の質保証及び質の向上のために行われる「部下の育成(教職員の育成)」について

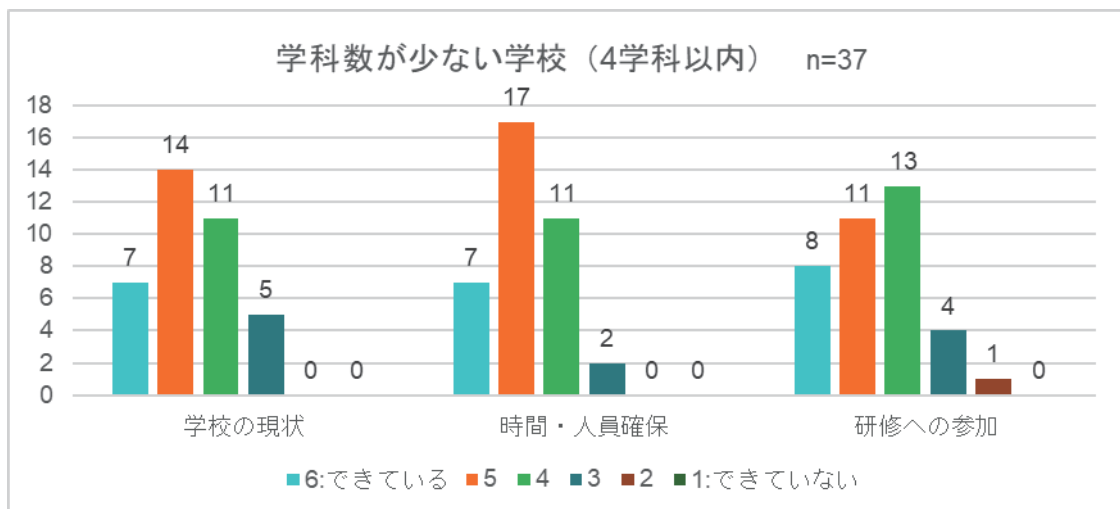
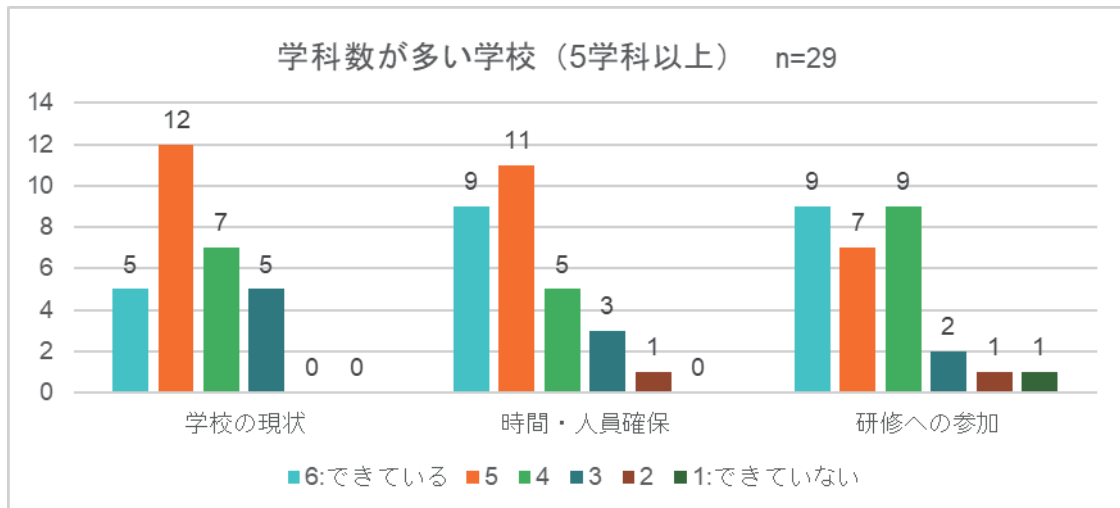
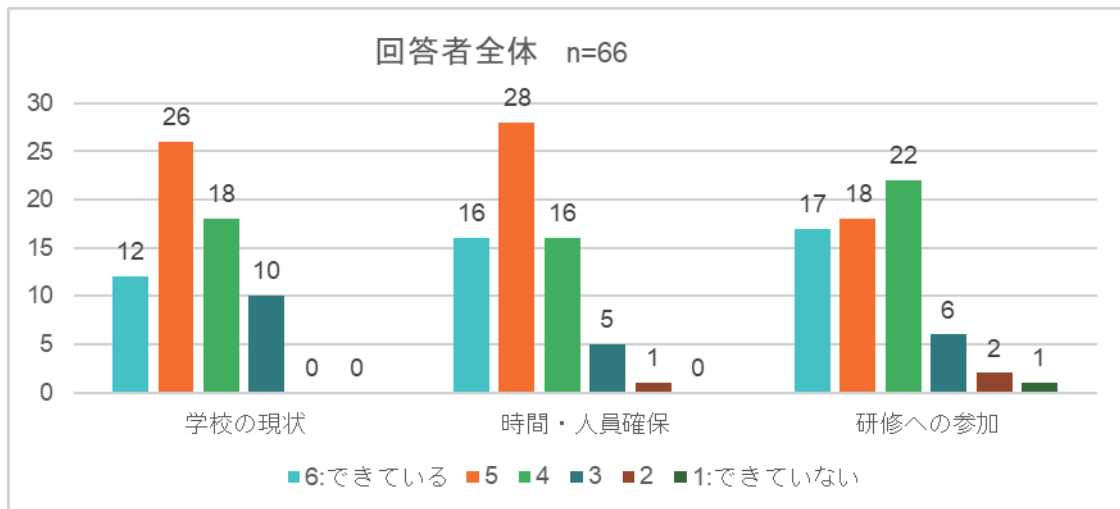


(2) 学科数が多い学校と少ない学校の比較

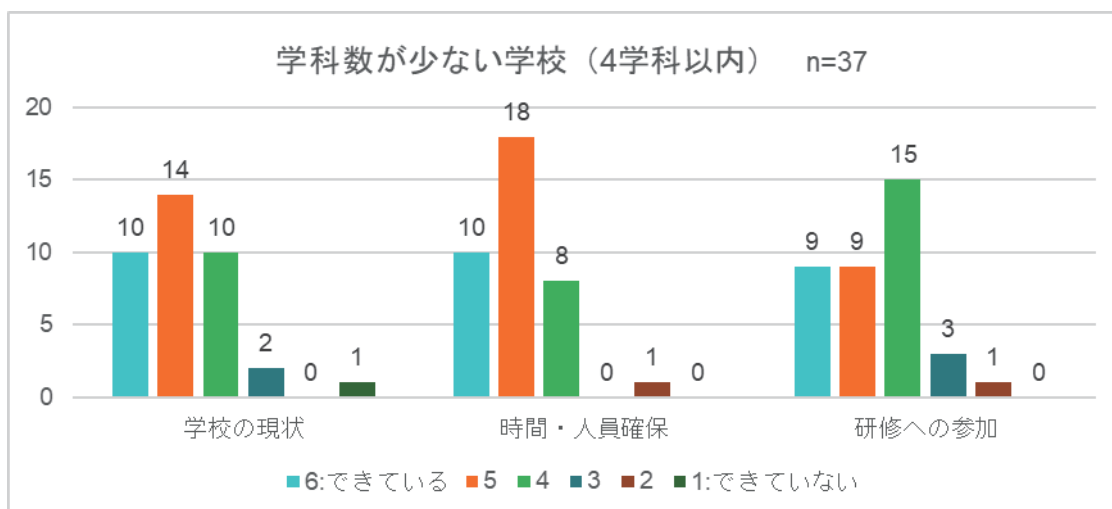
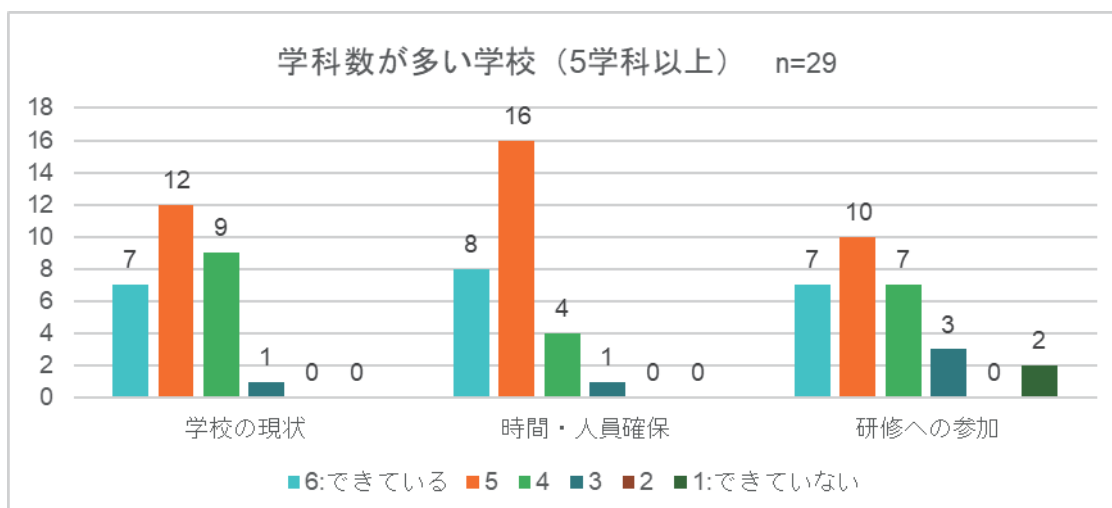
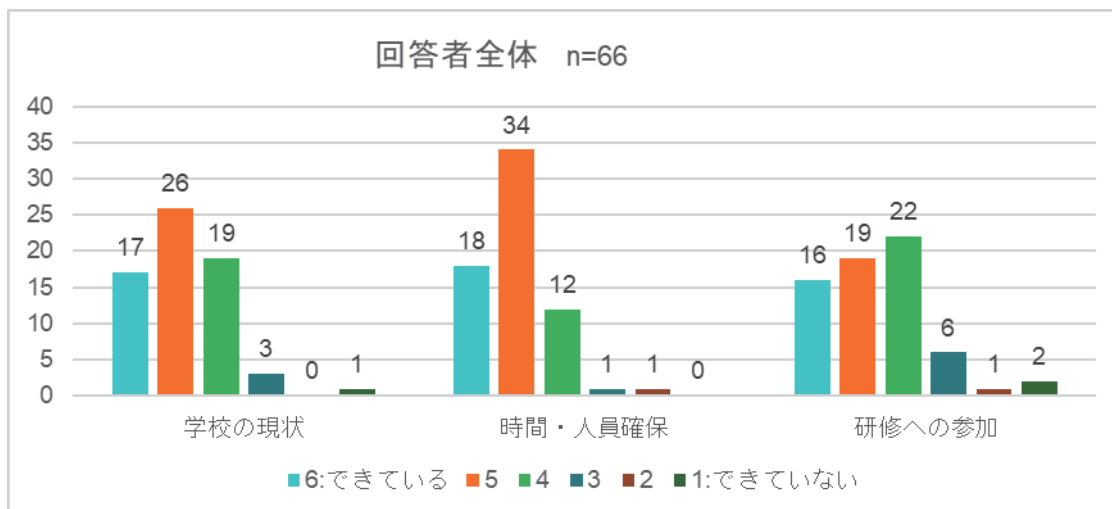
【設問 1】 計画(P)を立てる際に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー等の策定・見直し)について



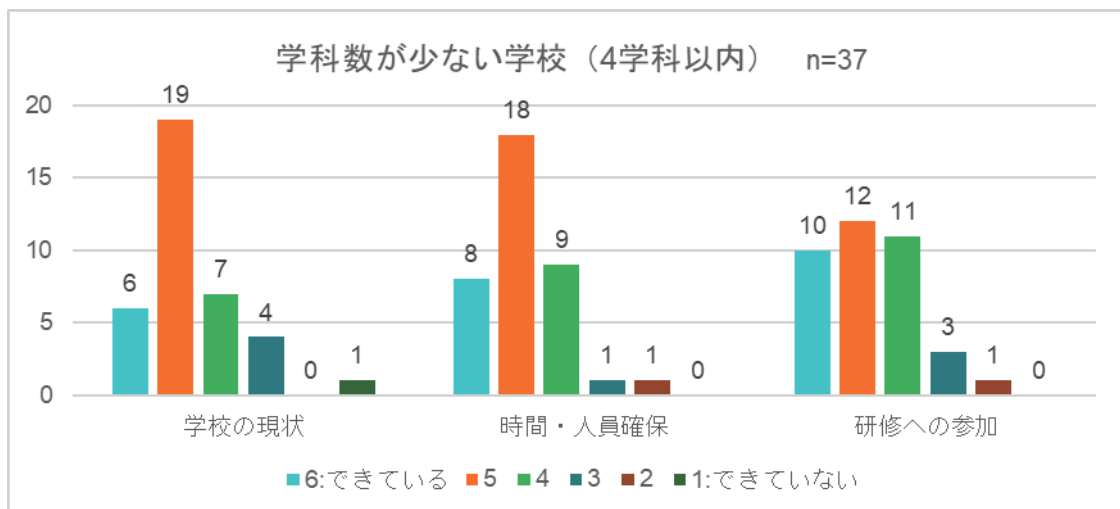
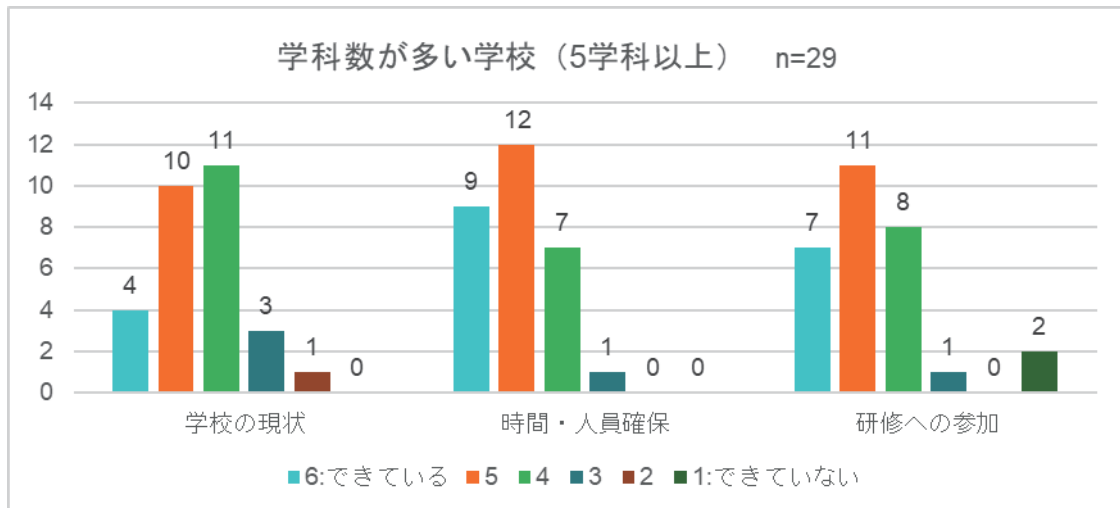
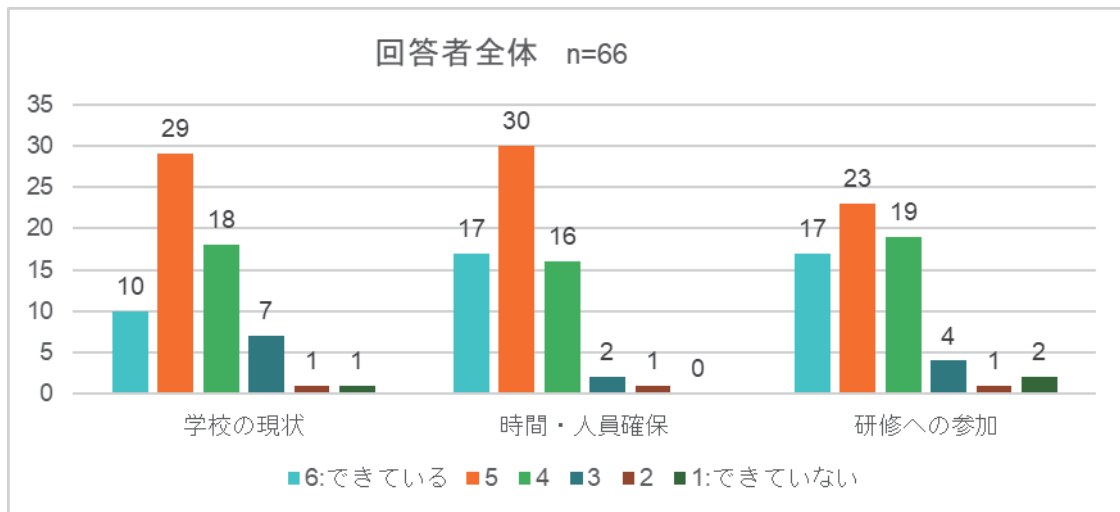
【設問 2】計画 (P) を立てる際に役立てられる「企業等との意見交換」について



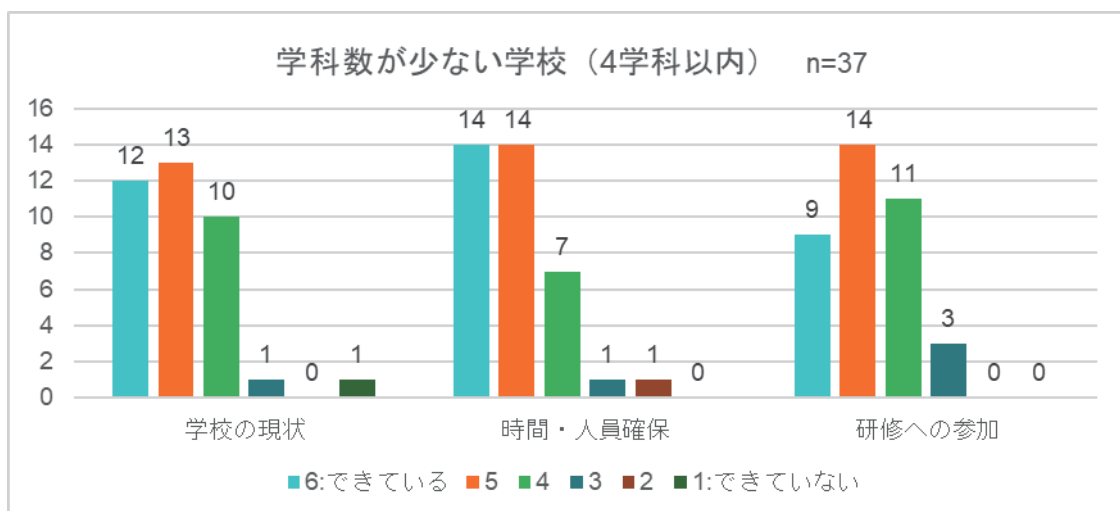
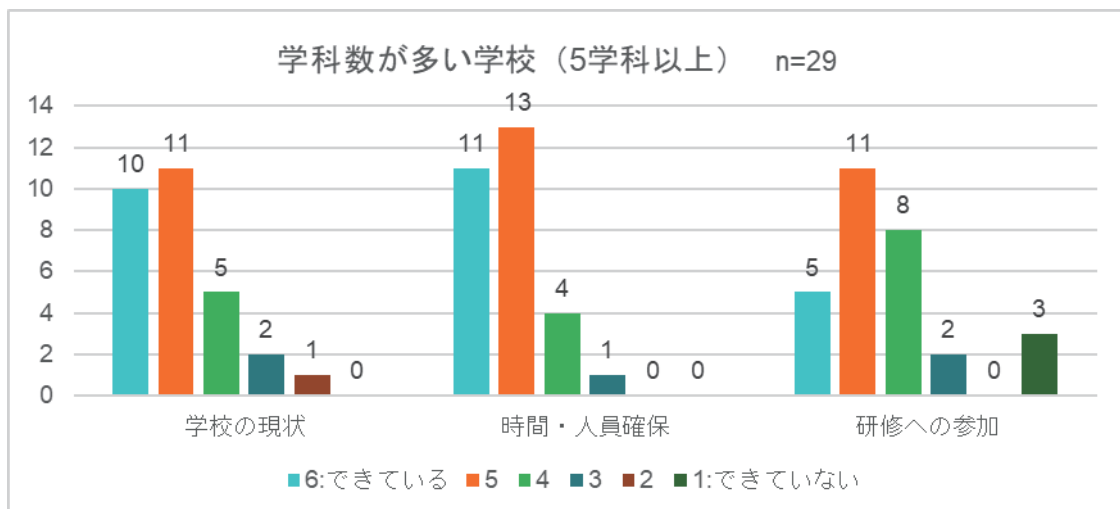
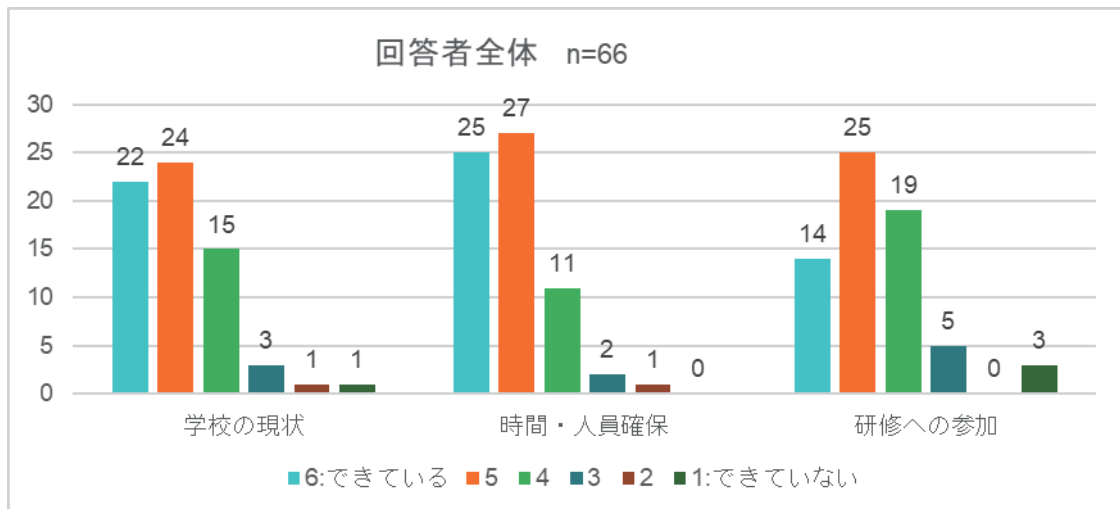
【設問3】計画(P)作成時に行われる「卒業認定の方針(ディプロマポリシー)に基づく、各学科における学習目標の設定」について



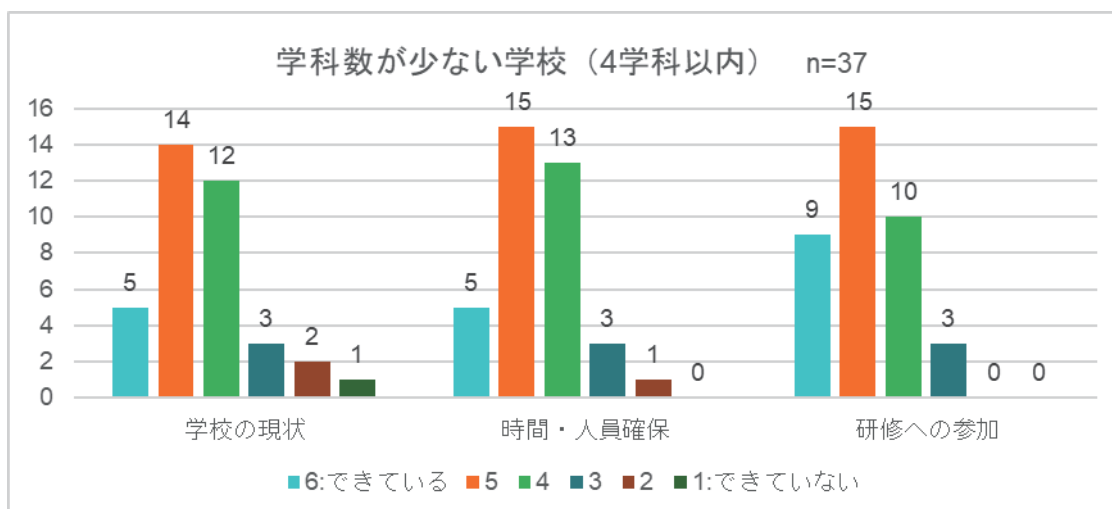
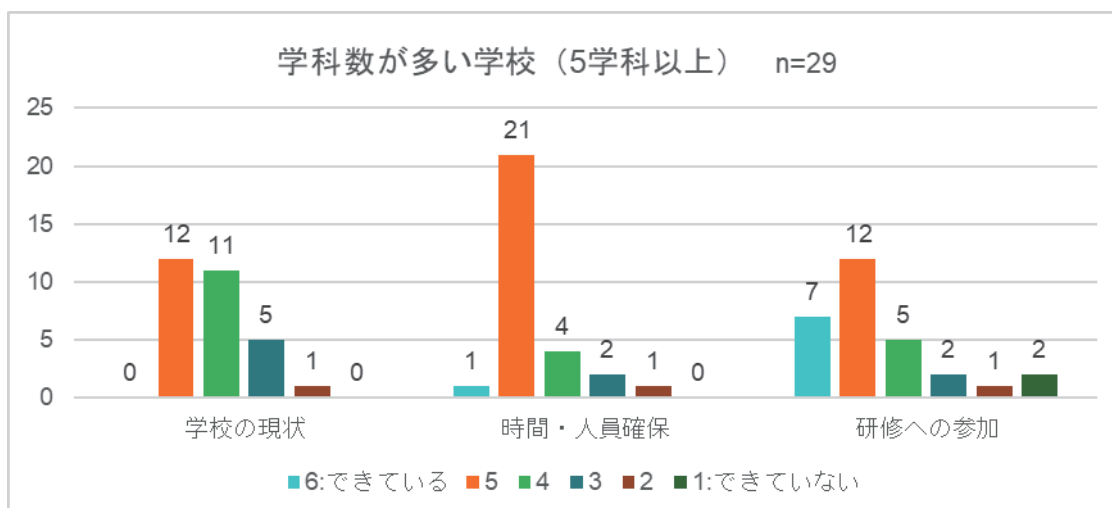
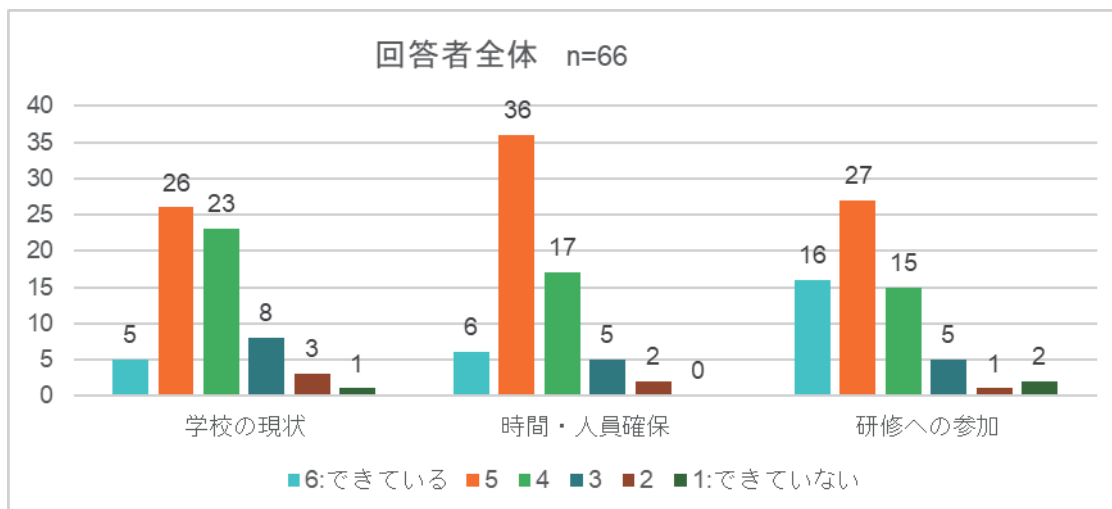
【設問 4】計画(P)作成時に行われる「学習目標に基づく教育課程の編成やカリキュラムマップの策定」について



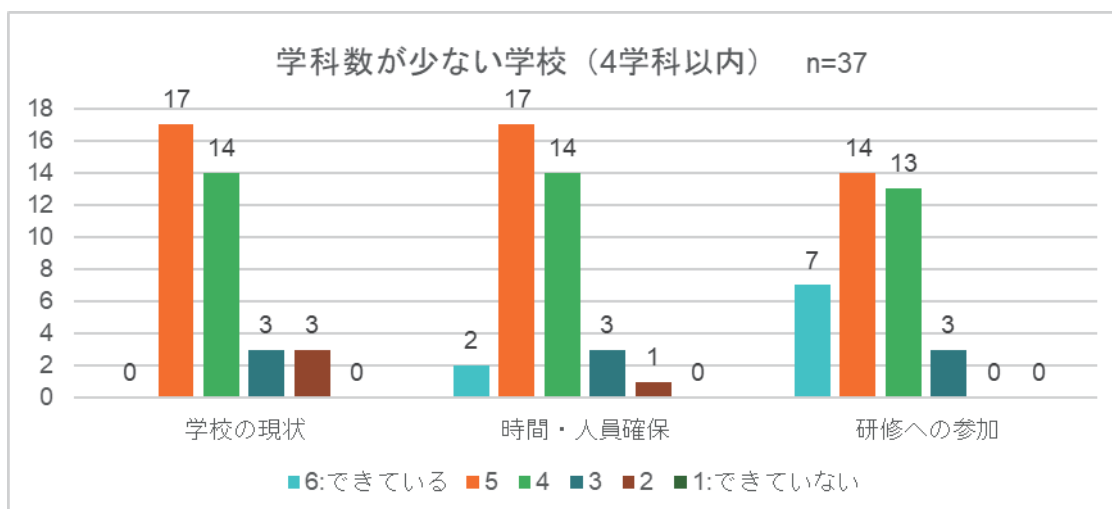
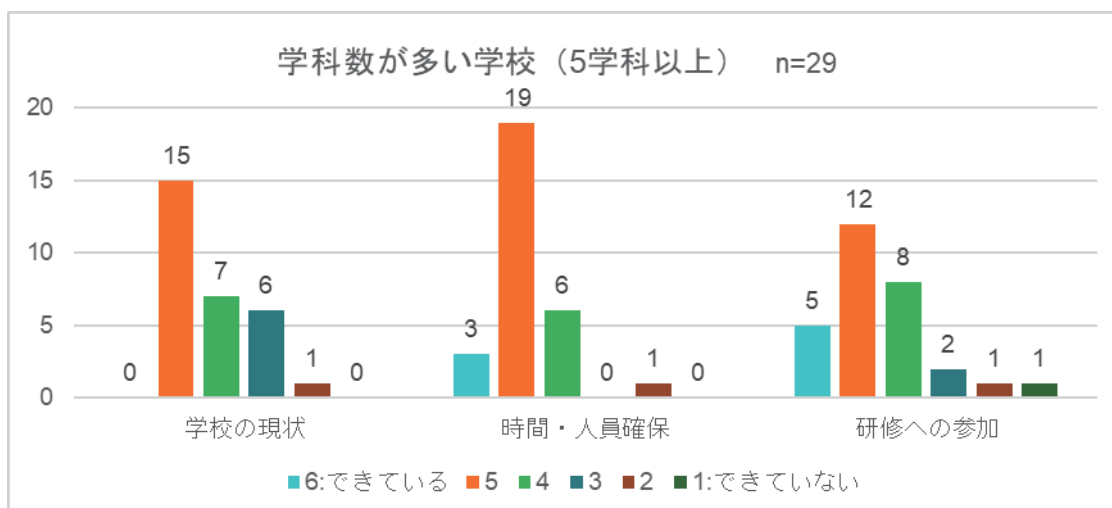
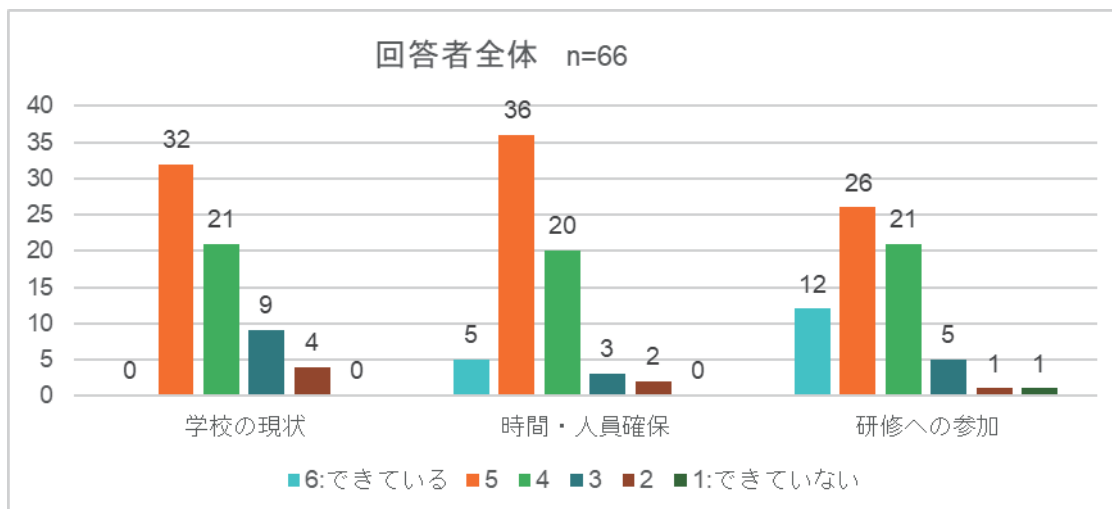
【設問 5】計画 (P) 作成時に行われる「統一された様式に基づくシラバス作成」について



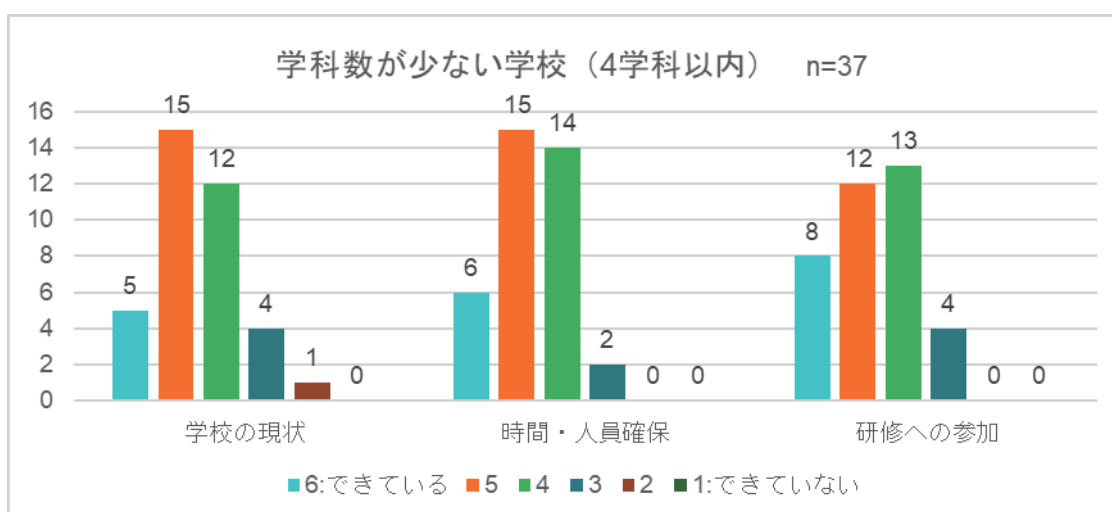
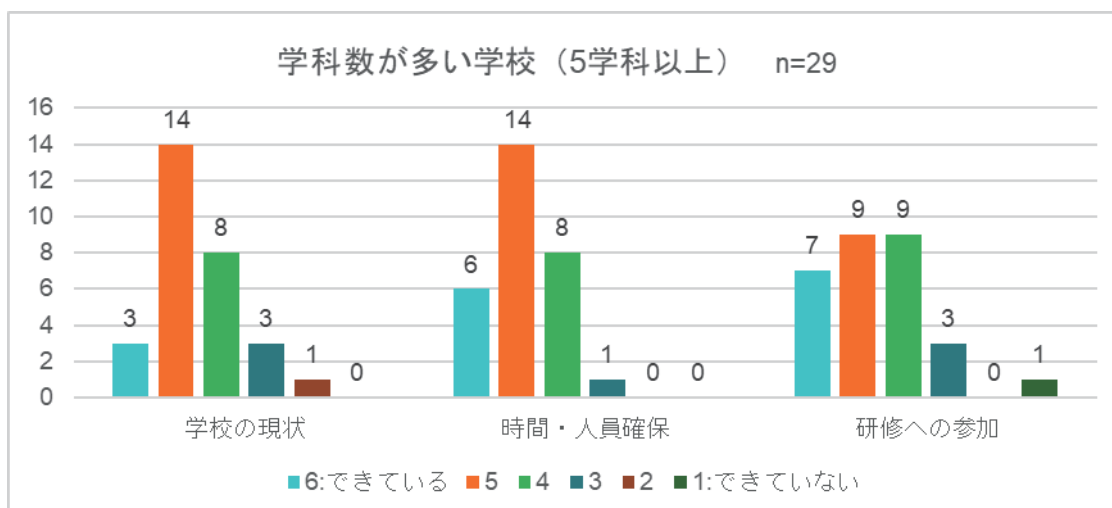
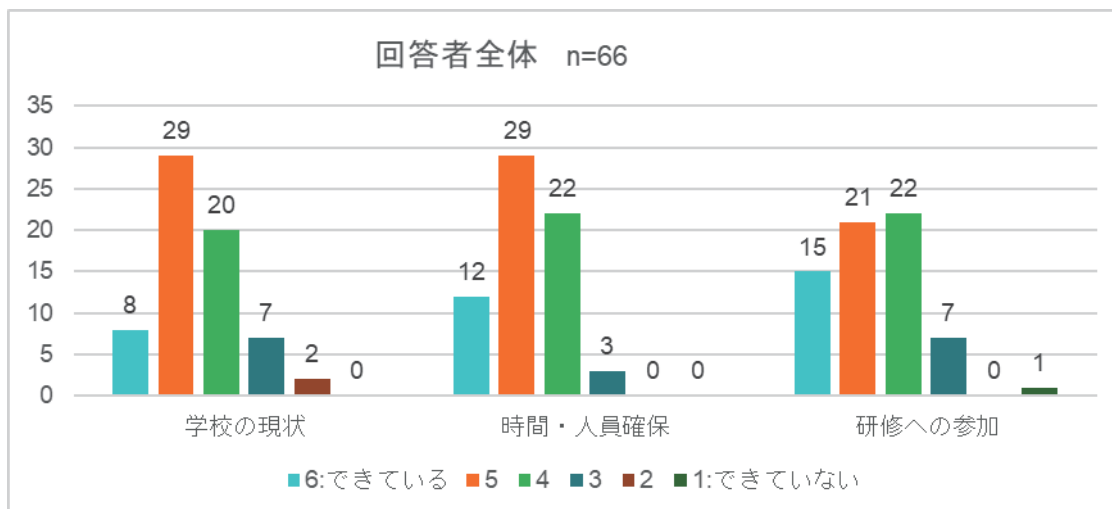
【設問 6】日々の教育活動の実践として行われる「シラバスに基づく、授業の実施と達成度の確認」について



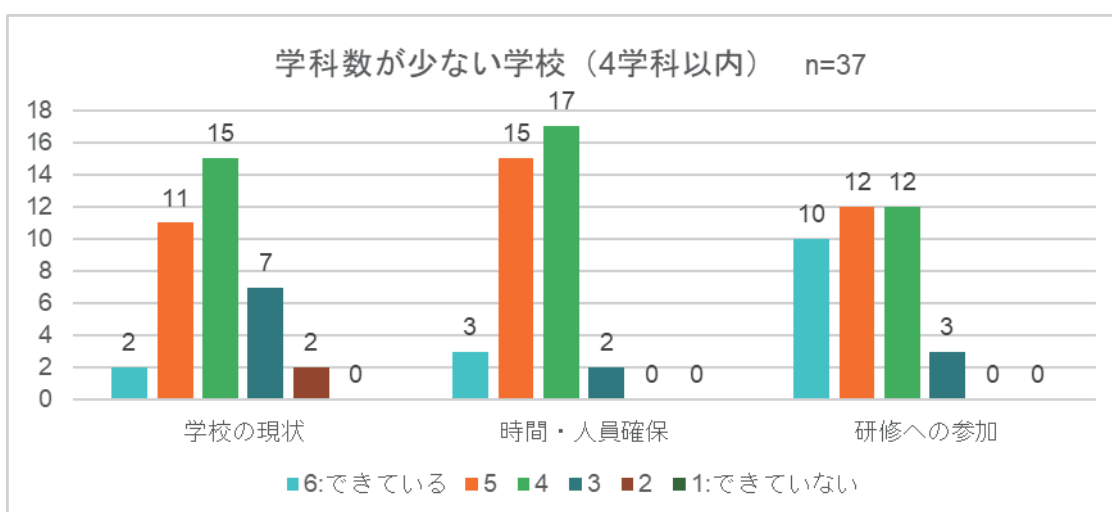
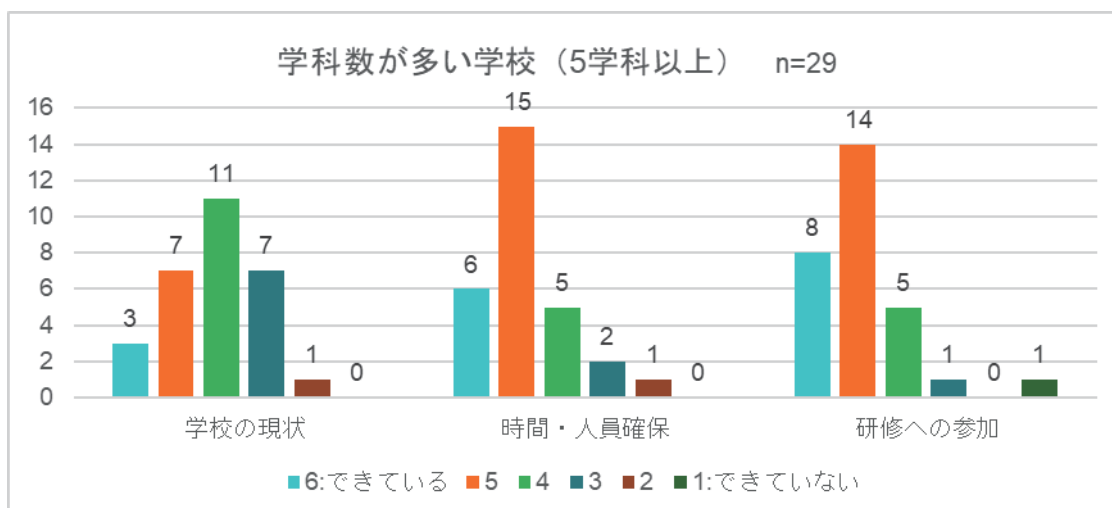
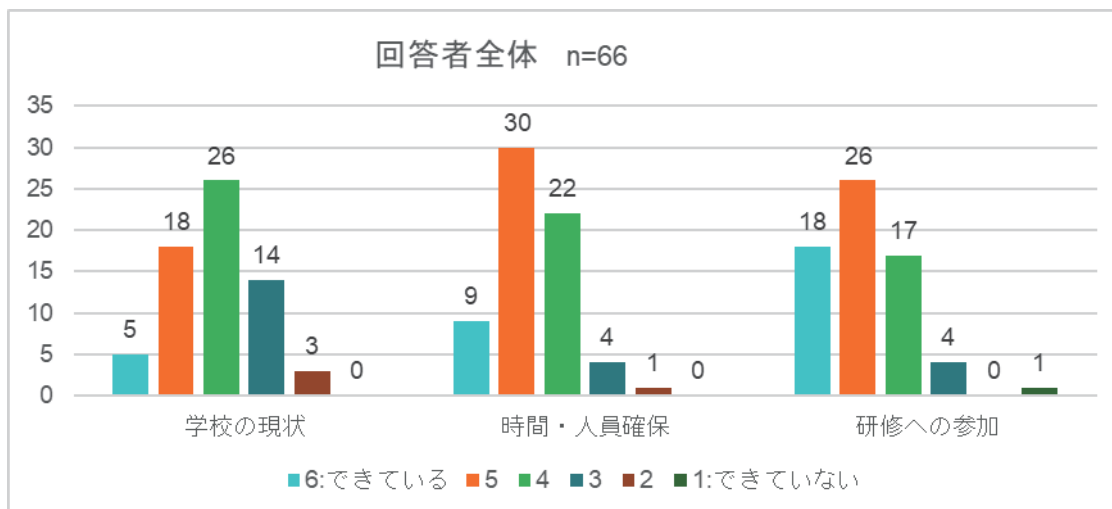
【設問 7】教育活動の実践として行われる「日々の授業の見直し、及び単元ごとの授業の見直し」について



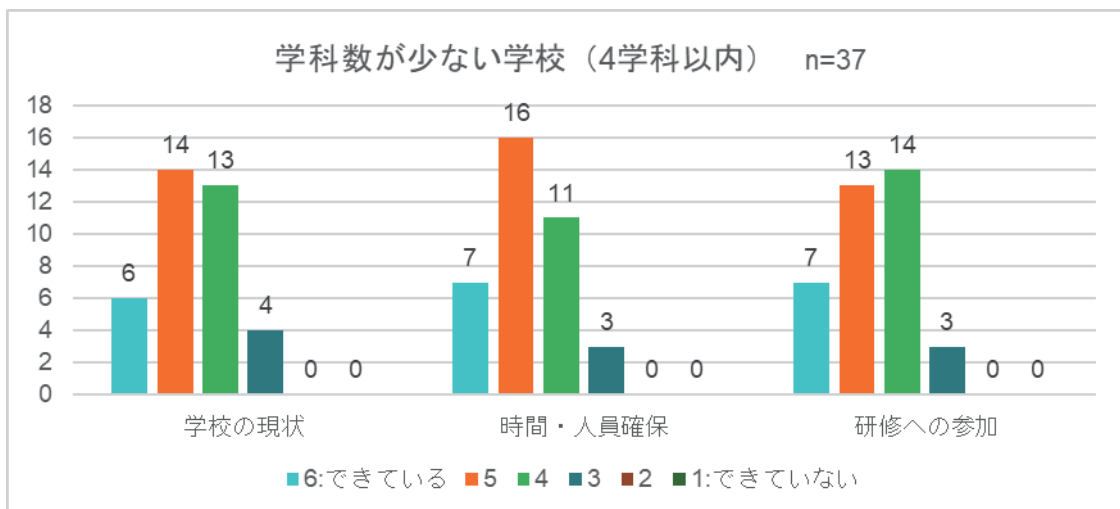
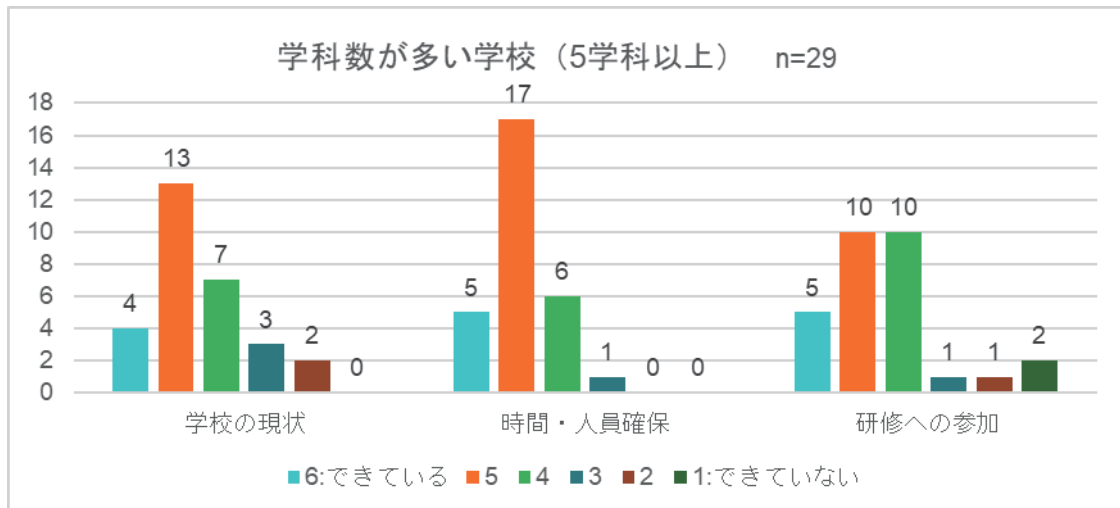
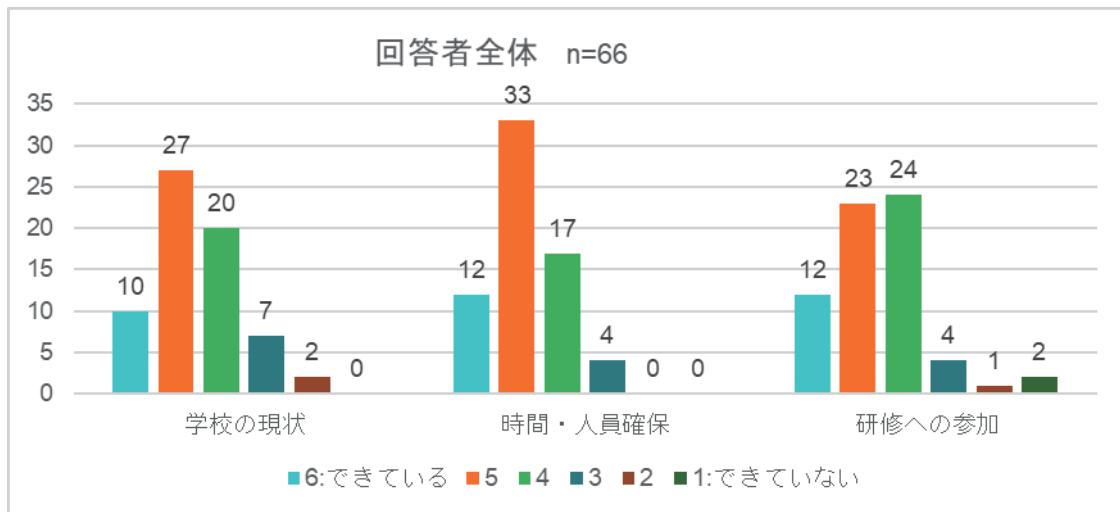
【設問 8】教育の質保証を目的とした評価活動として行われる「成績、出欠状況、授業アンケート等のデータの収集・分析」について



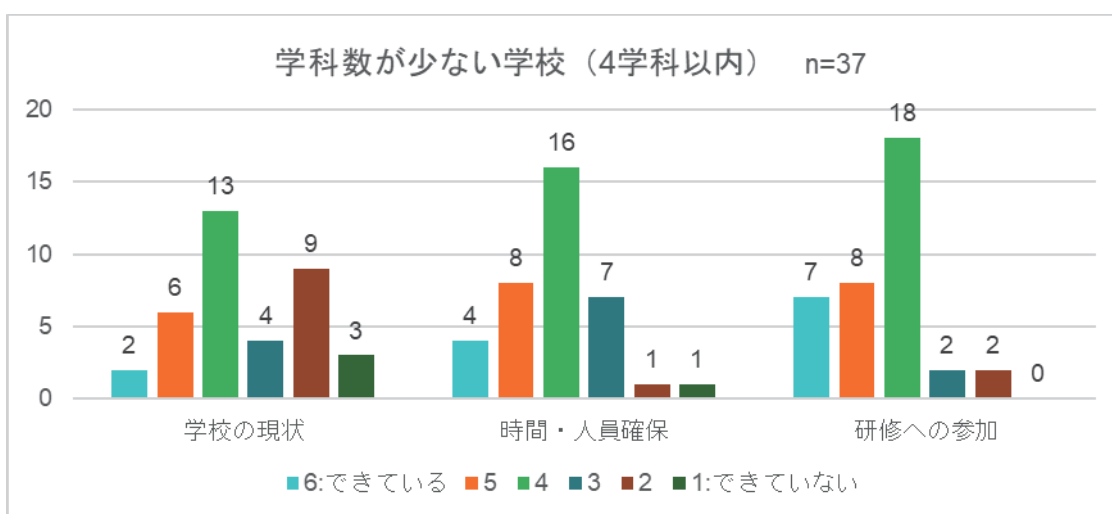
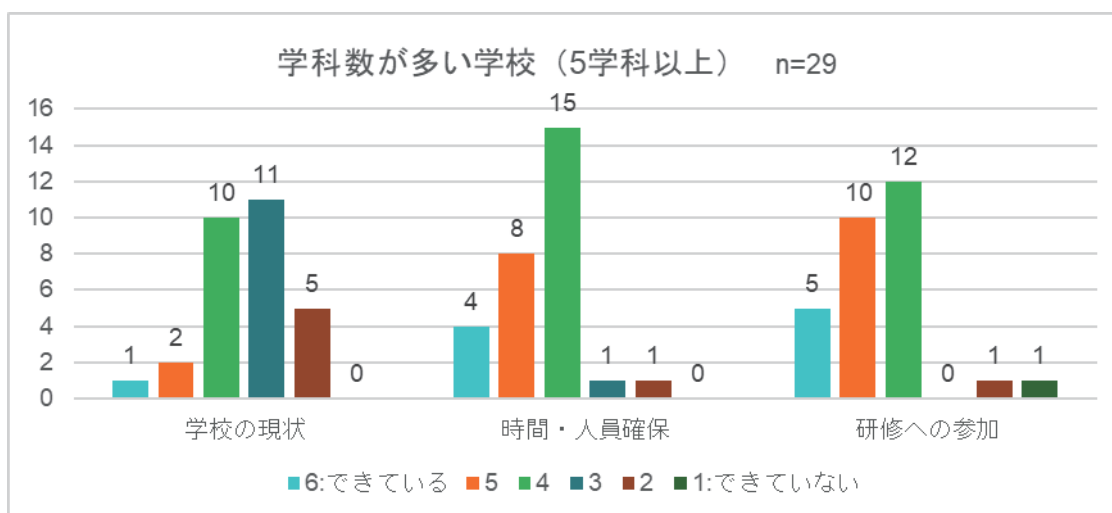
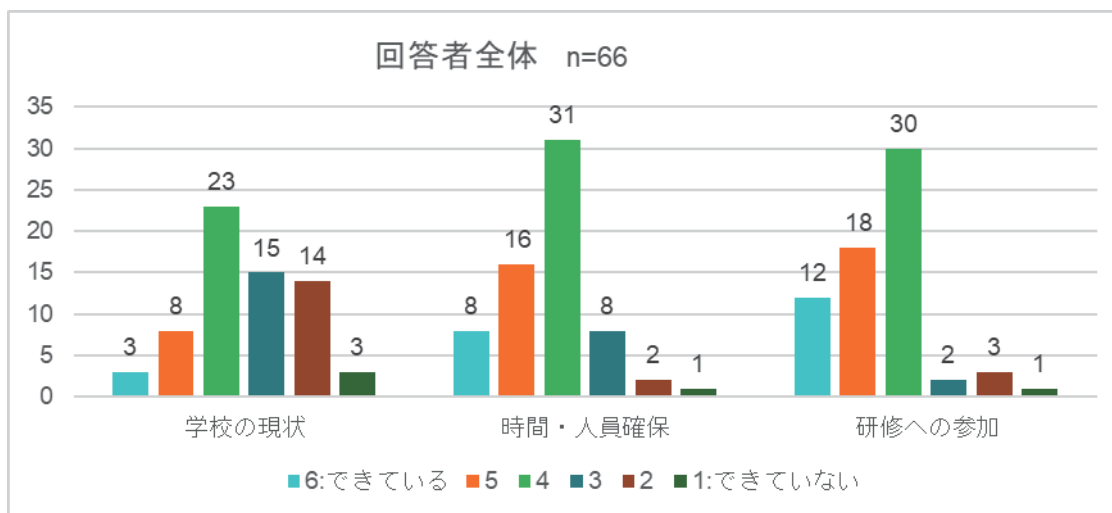
【設問 9】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動として行われる「教員への授業改善支援(学期/学年ごと)」について



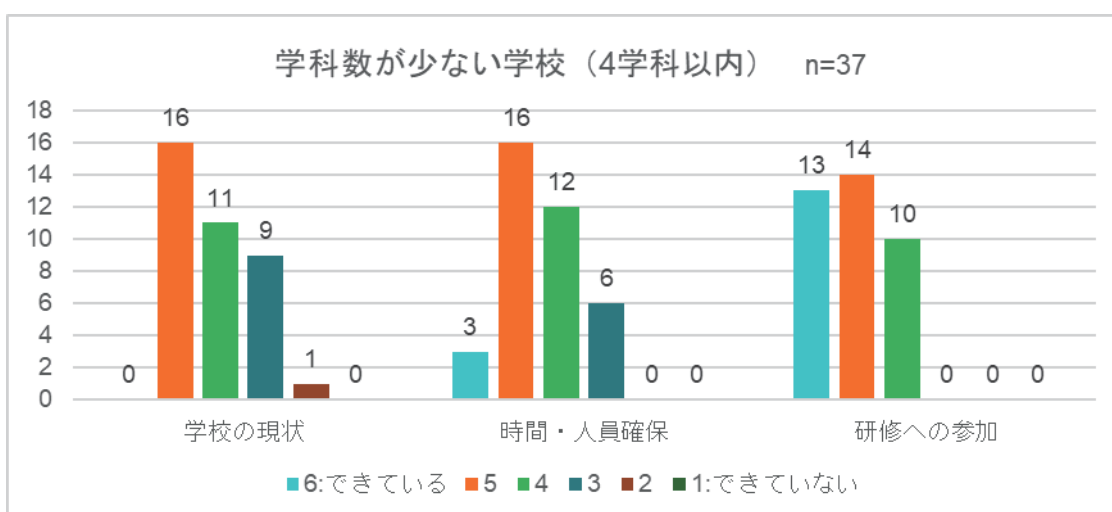
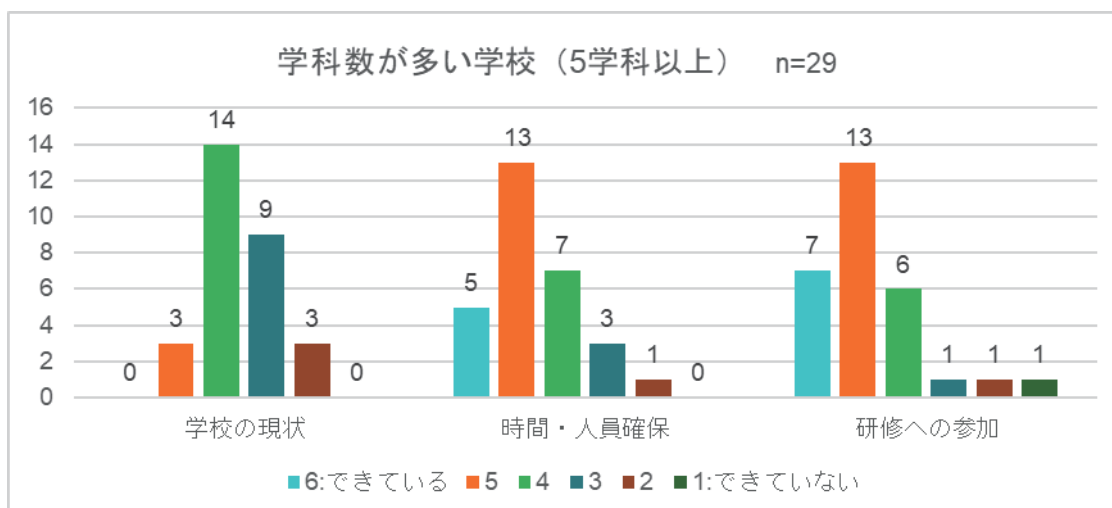
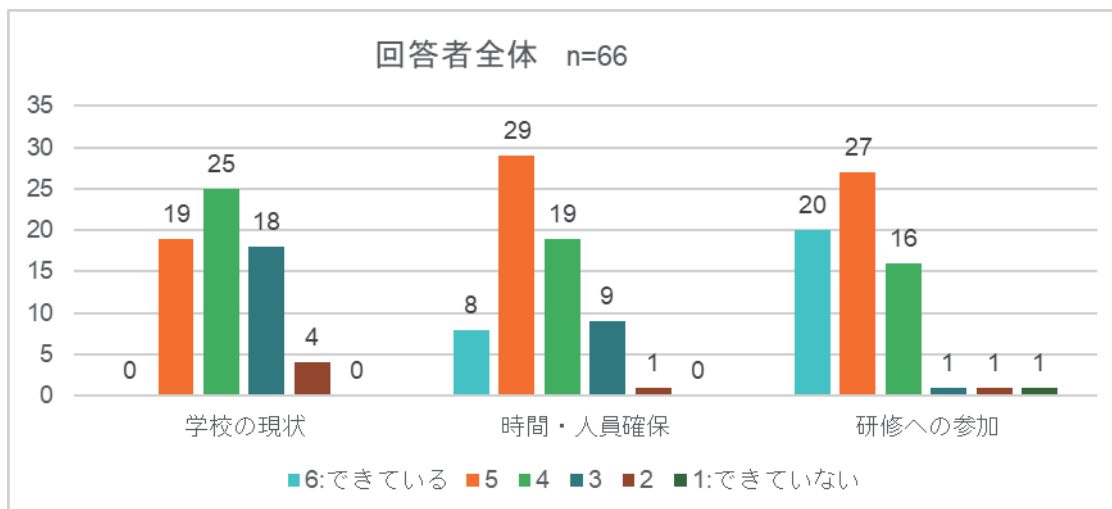
【設問 10】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動のための情報収集として行われる「卒業時の評価(就職率や成績、卒業時アンケート等の収集・分析)」について



【設問 11】教育の質保証及び質の向上を目的とした評価改善活動のための情報収集として行われる「企業による卒業生評価(卒業数年程度の卒業生に対するアンケート調査や就職先企業等へのヒアリング調査など、卒業後の追跡調査)」について



【設問 12】教育の質保証及び質の向上のために行われる「部下の育成(教職員の育成)」について



4-4. 考察及びまとめ

(1) 調査結果概要

職業教育マネジメントのプロセスに沿ってアンケート調査項目を大まかに分けると、設問 1～5 が計画(P)、設問 6・7 が実行(D)、設問 8・10・11 が評価(C)、設問 9・12 が改善(A)となる。

全体的な傾向として、計画(P)段階での取組は自己評価も高く、学校の現状として「できている」あるいは「概ねできている」との回答が多かった。またこれらの設問に対しては、「概ねできている」や「どちらかといえばできている」と答えた方の多くが、「実施するための時間・人員が確保できれば問題なく実施できるか」との問いに「概ねできる」と回答しており、現状としてあまり研修のニーズが高くないことがわかった。ただし、研修への参加意欲について設問2や設問3の回答(グラフ)を見ると、指定養成施設において「どちらかといえばそう思わない」や「あまりそう思わない」との回答があるために数値が低くなっており、指定養成施設以外では参加意欲が高い方が多いことがわかった。

一方、設問6以降の項目については、学校の現状として「どちらかといえばできていない」と回答する学校もあり、特に設問9と設問12では 4:「どちらかといえばできている」との回答が 5:「概ねできている」との回答を上回っている点に注意が必要である。これら設問9と設問12は、研修への参加意欲も高いので、研修のテーマとして重視すべきと考える。

(2) 職業教育マネジメントに関する現状と要望

職業教育マネジメントの現状について、プロセスごとに整理してみると、計画(P)段階については学校の現状も概ね問題なく進められているが、一方で、実行(D)段階から評価(C)、改善(A)に至るプロセスにおいては、多くの課題を抱えていることが窺えた。

また、全体としては、あまり研修への参加意欲が高くはない計画(P)段階の研修についても、指定養成施設以外の学校では参加意欲が高いようなので、受講対象やテーマを明確にした上で、こうした計画(P)段階の研修の開催も検討する必要がある。

次年度は、これらの結果を踏まえ、職業教育マネジメント分野の研修内容を検討していきたい。

令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
全学的な職業教育マネジメント確立のために必要な
専門スタッフ育成と情報公開の促進体制の整備

情報公開および職業教育マネジメントに関する調査報告書

令和4年3月
一般社団法人 全国専門学校教育研究会
〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 ウイン青山 1403

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。